

思いをあたため
心はずませ
創る喜びを

第43回
全道造形教育研究大会
旭川大会

1993・7・28 ▶ 29
(水) (木)

旭川市立東五条小学校

第 43 回
全道造形教育研究大会
— 旭川大会 —

北海道造形教育連盟研究主題

自らの心をより豊かに拓く造形学習の在り方

旭川大会研究主題

思いをあたため、心はずませ、創る喜びを

1993. 7. 28(水)～29日(木)
旭川市立東五条小学校

目 次

挨拶	3
祝辞	5
日程	9
会場案内図	10
開・閉会式次第	12
記念講演・シンボルマーク	13
研究概要 北海道造形教育連盟主題	14
旭川大会研究主題	16
公開授業一覧	26
授業案	27
分科会一覧	38
分科会提言	39
北海道造形教育連盟規約	56
北海道造形教育連盟名簿	57
全道造形教育研究大会の開催地と研究主題一覧	58
旭川大会役員一覧	60

旭川大会に寄せて



北海道造形教育連盟委員長 鹿嶋 健

爽やかな風が、ゆったりと流れる石狩の川面を渡っていきます。

第43回全道造形教育大会が、美しい大雪の山並みに抱かれた、川の街・彫刻の街、旭川市で開催されますことを皆様とともに心から喜び合いたいと思います。

本大会開催にあたり、日夜、研究とその準備にご努力いただきました運営委員長川島先生はじめ、旭川市図工美術教育研究会の先生方に皆様を代表して心からお礼申し上げます。

また、ご後援くださいました北海道教育委員会、旭川市教育委員会、各教育関係諸団体の皆様に厚く感謝申し上げます。

今日、造形教育に求められていることは、生涯にわたって芸術文化に親しみ、心豊かな生活を築くために、豊かな感性を培い、柔軟な発想力や想像力、鋭敏な直感力を基盤とした創造性や基礎的な造形能力を育成することです。

そのために、一人一人の子供の個性や創造性を伸ばし、その子らしい造形的な創造活動を支援していく授業の展開を図ることが重要な課題です。

この意味で本大会に掲げられました研究主題「思いをあたため、心をはずませ、創る喜びを」はまことに時宜を得、的を得たものと考えます。

本連盟は、一貫して「造形教育を通しての人間形成」を追及してまいりました。私たちはこの輝かしい伝統に確信を持ち、更に、新しい時

代に対応する造形教育の在り方を究明していかなければなりません。旭川大会の成果に心から期待を寄せるとともに皆様のご活躍をお願い申し上げます、私の挨拶といたします。



新富小学校 2年 鈴木 さやか

ようこそ文化都市旭川へ



第43回全道造形教育研究大会

運営委員長 川島 信也

北海道の屋根大雪山の眼下に広がる上川盆地。その中原を北海道屈指の大河石狩川が流れます。この上川盆地の中心にある人口36万人を擁する旭川は、北北海道の中核都市としての役割を担って躍動しているところであります。

7月24日には井上靖記念館のオープン、9月には旭川市開基百年を記念して建築を開始した大雪クリスタルホールがオープンが予定されております。

また、24回目をむかえた中原悌二郎賞の授賞式、明年度開館予定の彫刻美術館等、文化の香り高い道北の拠点旭川は、川の街、橋の街、彫刻の街としての景観も全国的に脚光を浴びております。

駅前の買い物公園から3km余りのところにある東五条小学校が、第43回全道造形教育研究大会の会場となります。全道からご参加の皆様を心から歓迎申し上げます。

43回という歴史の中で、旭川での大会は7年ぶり5回目の開催となります。前回は第39回全国造形教育研究大会を兼ねての開催であり、「つくる心の広がり」と深まりを求めて」をテーマにした研究大会でした。

今年は小学校の新学習指導要領の完全実施から一年が経過し、中学校では完全実施の一年目であり、選択教科の拡大など、課題がたくさんあります。今大会では、それらの課題について少しでも解決する方法やヒントをお持ち帰りい

ただき、造形教育により一層専念いただければ幸いです。

最後に、ご後援いただいた北海道教育委員会、旭川市教育委員会、教育関係機関団体の皆様や直接本大会にご尽力をいただいた皆様、そして、全道各地からご参会の皆様に深く感謝申し上げます。歓迎の挨拶とさせていただきます。



雨粉小学校 3年 清水 夕希代

祝 辞



北海道教育庁上川教育局長 佐藤 仁志

第43回全道造形教育研究大会が、全道各地から多数の先生方の参加を得て、緑豊かな川と橋の街旭川市で盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

全道造形教育連盟は、子供たちの豊かな心とたくましい創造力を育てるために、早くから幼稚園、小学校、中学校、高等学校の一貫した造形教育を推進するとともに、地域性を生かした実践的な研究を重ね、大きな成果をあげてこられました。

このことは、関係者の皆様の御尽力の賜であり深く敬意を表します。

御承知のように、今日の学校教育においては、子供一人一人の個性や思考力、創造力を重視した教育活動の推進が求められております。

そのためには、子供一人一人の思いや願いを生かし、主体的に学んでいくことができるよう子供の側に立った教育活動を進め、美的体験を豊かにさせたり、創造する喜びを味わわせることが大切です。

特に、幼児期から思春期までは、感性が著しく育つ時期であることから、発達段階に応じて一人一人の感性が磨かれるよう支援することが必要です。

幸い、本研究大会では、「思いをあたため、心はずませ、創る喜びを」をテーマに指導内容や指導方法の改善を図ることに努めてこられました。

また、地域性を生かした教材開発など子供の側に立った創造活動の在り方を求めた実践研究に取り組まれておりますことは大変意義深く、その成果に大きな期待を寄せるものです。

終わりに、本研究大会が地元関係者の熱意と全道各地の先生方の期待に応える充実した研究大会となりますよう祈念申し上げ、お祝いのことばといたします。



北門中学校 1年 佐々木あゆみ

お祝いのことば



旭川市教育委員会教育長 後藤典亨

第43回全道造形教育研究大会が全道各地から多くの先生方を「彫刻の街旭川」にお迎えして開催されますことは誠に光栄であり、遠来の皆様を心から歓迎申し上げますとともに、本大会のご盛会を祈念するものであります。

さて、これからの学校教育におきましては、変化の激しい社会において主体的に生きていくことのできる資質を養うことを基本的なねらいとして、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力を育成するとともに、基礎的・基本的な内容を重視し、個性を生かす教育を推進することが重要であります。その実現に向けて、生きて働く思考力・判断力と自信をもって表現したり行動することのできる心豊かで創造的な児童生徒の育成を図ることが大切です。

旭川大会が「思いをあたため、心はずませ、創る喜びを」を研究主題に設定し、造形活動を通し創造的な表現活動の喜びを味わう情操教育の在り方を追求されますことは誠に時宜を得たものであり、多大な成果をご期待申し上げます。

さらに、これまでの研究実績を基に、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の4校種で研究協議を深められますことは本市の教育にとっても誠に意義深いものと思うところであります。

最後になりましたが、運営に当たられた諸先生方、大会にご支援ご協力をいただいた関係各位に心より感謝申し上げますとともに、本大会

のご成功と全道造形教育連盟のますますのご発展を祈念いたしましてお祝いのことばといたします。



陵雲小学校 6年 土橋雄一

第43回全道造形教育研究大会に寄せて



旭川市教育研究会

会長 後藤久雄

第43回全道造形教育研究大会旭川大会が開催されるにあたり、お祝い申し上げます。

本研究大会に全道各地の幼稚園、小学校、中学校、高等学校の先生方がご参集され「思いをあたため、心はずませ、創る喜びを」旭川大会の研究主題に掲げ、創造性を高める図画工作・美術教育のあり方を求めての研究大会が開催されますことは誠に意義深いことでもあります。

また、日ごろから各地で造形教育の指導者として図画工作・美術教育の充実・発展のために種々ご尽力されていることに敬意を表する次第であります。

さて、今日の日本の社会は情報化、国際化、高齢化などの進展により大きく変わってきており、学校教育においても、このような社会の変化に適切に対応することが求められております。

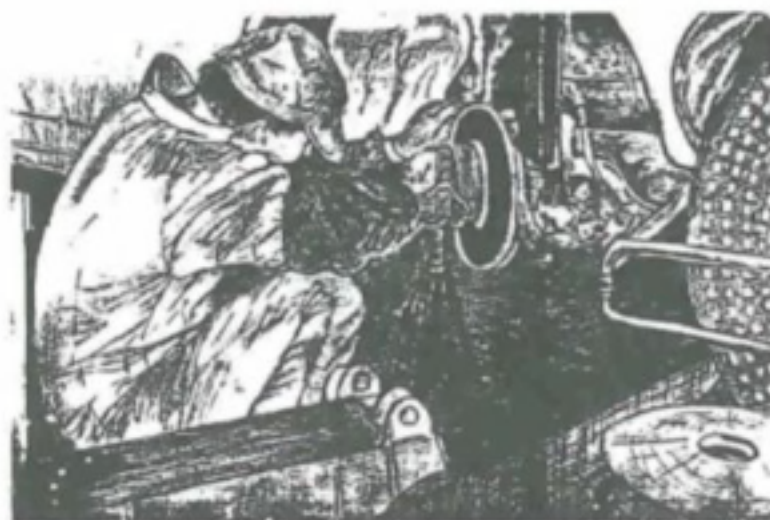
新学習指導要領は、このような観点に立って、一人一人の個性を伸長し、豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成を目指して新しい教育を展開しているところです。

こうした中で、第43回の歴史をもつこの研究大会は発足以来「人間性の豊かさを求めて」を主題に幼年期から青年期まで一貫して美的情操を培う創造性を高めるための研究を継続され、今、学校教育に求められている課題の背景や趣旨を考えると、造形教育の期待は大きく、新学習指導要領の小・中学校での完全実施を考えると、極めて時期を得たものであり誠に意義深

いものがあります。

旭川市における開催は5度目の開催と聞いております。夏季休業中、しかも酷暑の時期ではありますが、意欲ある参加者の熱意によって期待通りの成果を収め、本道の造形教育に新しい飛躍の機会になりますよう祈念申し上げます。

おわりに北海道造形教育連盟の益々のご発展と旭川市教育研究会の図工美術部のご苦勞に対し、心から敬意を表すると共に、本研究大会の盛況を祈念し、研究大会に寄せてのごあいさつといたします。



附属旭川中学校 3年 青 絵里子

歓迎のことば



旭川市立東五条小学校長 野村 信 男

第43回全道造形教育研究大会旭川大会が、本校を会場にして開催されますことに大きな喜びを感じますとともに、この大会に参加される皆様を心よりご歓迎申し上げます。

本校は、昭和27年に開校して以来、先生方のたゆまぬ努力と、父母・地域の方々の協力によって、教育研究実践校として歴史と伝統のある学校であります。

本年度は、教育課程実施上の課題を明らかにするとともに、教育目標を具体化した諸計画の立案に活動の重みづけを工夫し、より豊かで、充実した教育活動を実践しております。

特に、児童が自ら考え、豊かに表現し、行動していく主体的な資質や能力を育成することを考え「学習と生活の諸課題を自ら発見し、その解決に意欲をもって、ねばり強く取り組むこと」など、自己実現への努力を重視しております。

校舎は、老朽化にともなって、平成2年に改築され、ワークスペース・多目的ホールを備えた近代的な校舎に生まれかわりました。

校舎の外観はメルヘンタッチの様相を呈し、前面に配したステンドグラスをはじめ、二面の壁画、中庭のメモリアルカプセルなど、まさにこの造形教育研究大会の会場校として、ふさわしい教育環境を具備しているのではないかと思います。

おわりに、二日間にわたるこの研究大会が、所期の目的を達するとともに、大きな成果を上

げ、皆様の心に残るものとなりますことを心よりご祈念申し上げ、歓迎のことばといたします。





思いをあたため
心はずませ
創る喜びを (旭川大会研究主題)

自らの心をより豊かに
拓く造形学習の在り方
一人一人が造形的表現活動の
喜びを実感するために
(北海道造形教育連盟研究主題)

第43回 ● 1993

全道造形教育研究大会 旭川大会

会 期

平成5年7月28日(水)・29日(木)

会 場

旭川市立東五条小学校 (旭川市東5条5丁目 TEL (0166) 26-0295)

日 程

●大会第1日：7月28日(水)

8:30~9:30 10:20 10:40~11:10 11:20~12:30 13:30~16:00 18:00~20:00

受 付	公 開 授 業	移 動	開 会 式	移 動	分 科 会 1	昼 食 アトラク ション	分 科 会 2	移 動	歓 迎 レ セ プ シ ヨ ン
--------	---------	--------	-------	--------	---------	--------------------	---------	--------	-----------------------------------

○歓迎セレモニー—東五条小学校太鼓 ○歓迎アトラクション(グリーンコンサート)
東五条小学校器楽クラブ/明星中学校吹奏楽部

●大会第2日：7月29日(木)

8:30~9:00 10:20 10:30~11:50 12:00~12:20

受 付	造 形 広 場	移 動	記 念 講 演	閉 会 式
--------	---------	--------	---------	-------

— 記念講演 —

奥 田 實 氏
〈日本写真家協会会員〉
「自然をきり撮る」

主 催

北海道造形教育連盟
旭川市教育研究会 図工美術部

後 援

北海道教育委員会/旭川市教育委員会
旭川市小学校長会/旭川市中学校長会
上川管内教育研究会/旭川市教育研究会
北海道私立幼稚園協会旭川支部

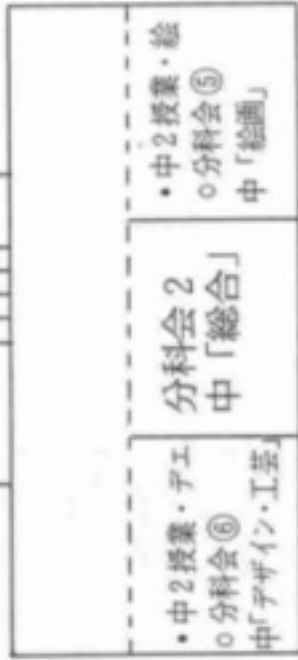
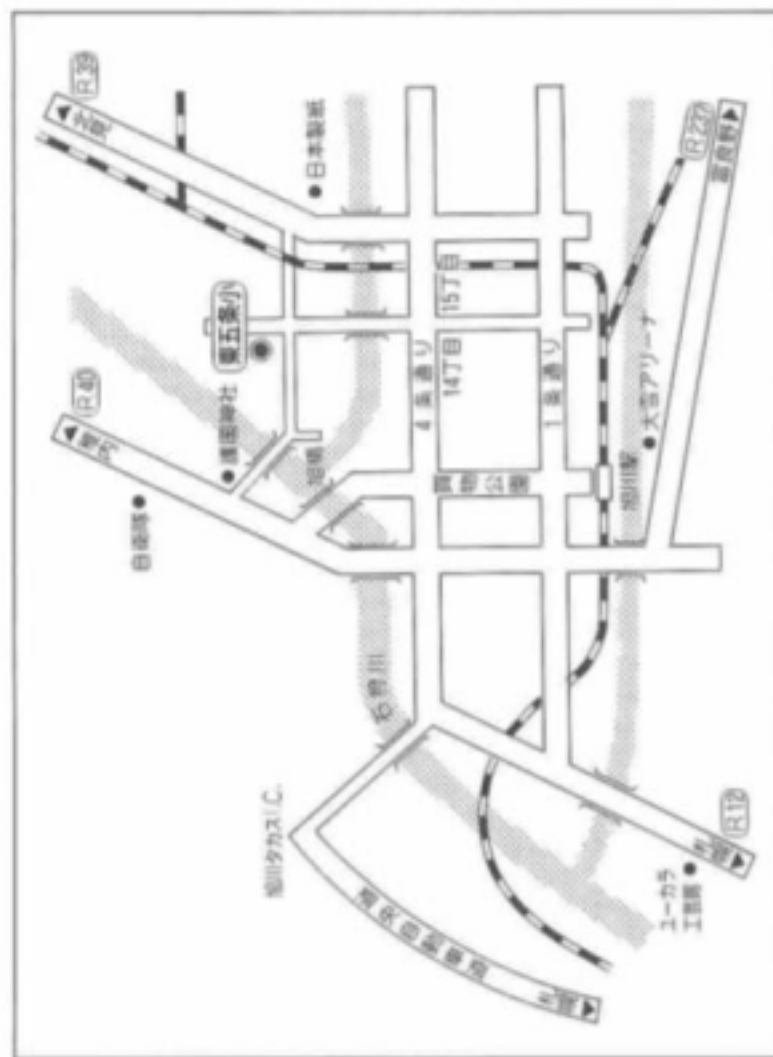
旭川大会事務局

旭川市立神居東中学校 070 旭川市神居雨紛72番地 ☎(0166) 61-8298 鳥本捷夫

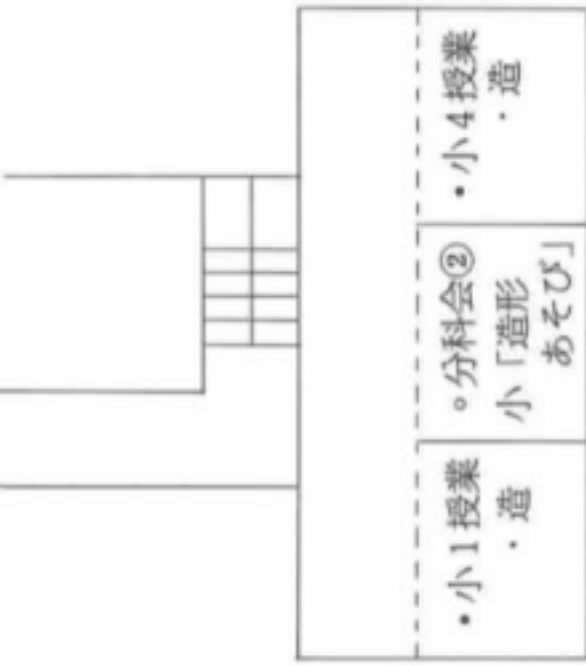
会場案内図



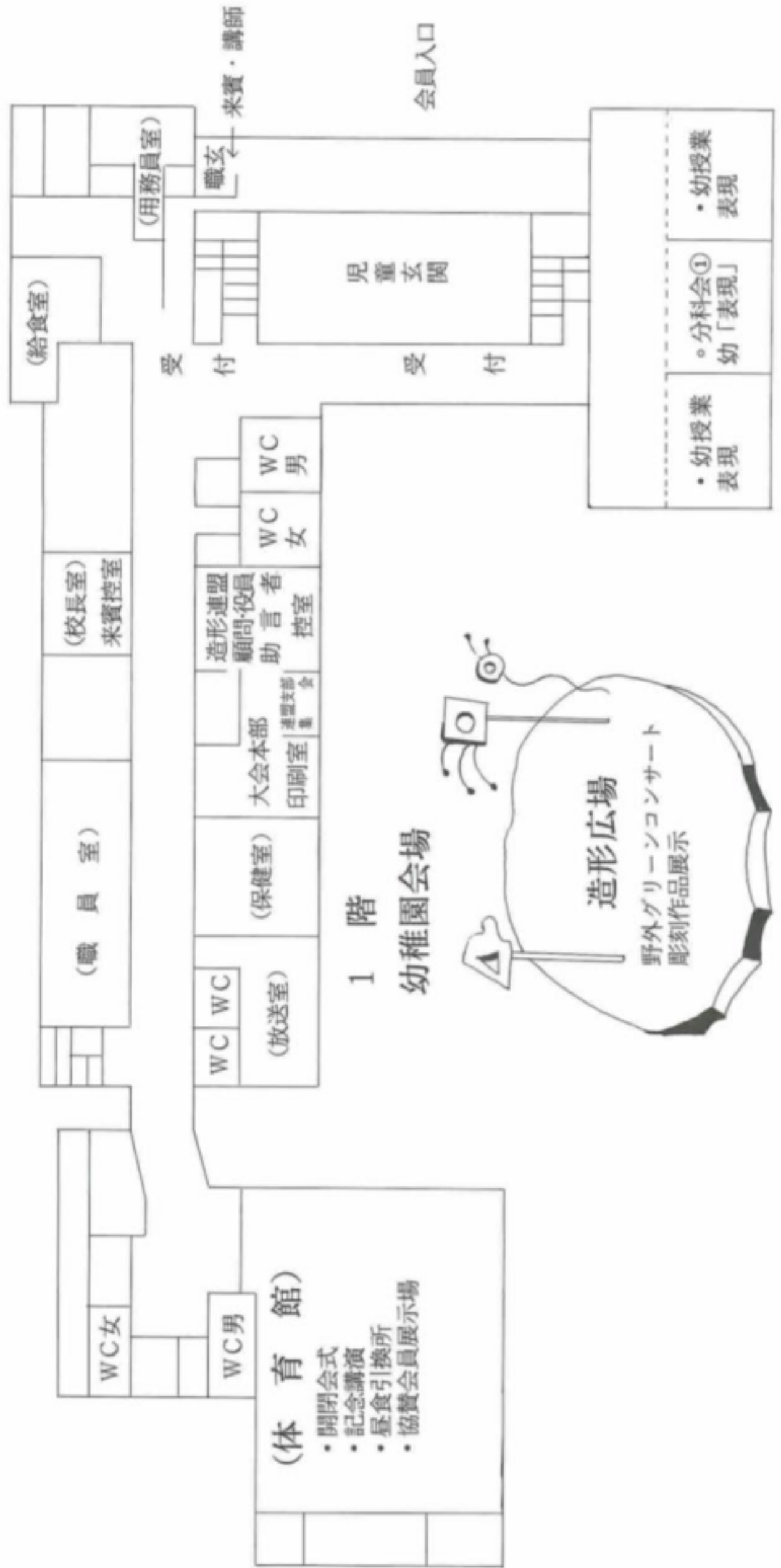
3 階 中学校会場 高校会場



2 階 小学校会場



1 階 幼稚園会場



開 会 式 次 第

	(司会 大会運営副委員長	古 屋 栄 隆)
。 歓迎セレモニー	東 五 条 小 学 校 太 鼓	
1. 開 会 の 言 葉	旭 川 大 会 実 行 委 員 長	大 久 保 正 義
2. 挨 拶	旭 川 大 会 運 営 委 員 長	川 島 信 也
	北 海 道 造 形 教 育 連 盟 委 員 長	鹿 嶋 健
3. 祝 辞	北 海 道 教 育 庁 上 川 教 育 局 長	佐 藤 仁 志
	旭 川 市 教 育 委 員 会 教 育 長	後 藤 典 亨
4. 来 賓 紹 介	大 会 運 営 副 委 員 長	千 葉 豊 治
5. 研 究 概 要 説 明	北 海 道 造 形 教 育 連 盟 研 究 部 長	菅 原 清 貴
6. 閉 会 の 言 葉	旭 川 大 会 実 行 委 員 長	大 久 保 正 義

閉 会 式 次 第

	(司会 大会運営副委員長	原 良 三)
1. 開 会 の 言 葉	旭 川 大 会 実 行 委 員 長	大 久 保 正 義
2. 挨 拶	北 海 道 造 形 教 育 連 盟 委 員 長	鹿 嶋 健
3. 連 盟 旗 引 継 ぎ	旭 川 市 ————— 釧 路 市	
4. 次 期 開 催 地 代 表 挨 拶	釧 路 造 形 教 育 研 究 会	稲 船 正 男
5. 閉 会 の 言 葉	旭 川 大 会 実 行 委 員 長	大 久 保 正 義

記念講演

- 演 題 自然をきり撮る
- 講 師 奥 田 實 (日本写真家協会会員)
- 略 歴

1948年 埼玉県本庄市生まれ。

自然が好きで、全国の風景を撮影するかたわら、植物にも興味を持つようになり、山へ登り始める。以来、風景や植物を中心に幅広い自然写真に取り組んでいる。

1986年より大雪山山麓に仕事場を持ち、北海道を主な撮影活動の舞台にしている。

〔著書〕『大雪山のお花畑』『北海道 花の大地』『大雪山』
(共に山と溪谷社刊)

現在、日本の桜に取り組んでいる。写真集は来春発刊予定。
日本写真家協会会員。



旭川大会 シンボルマーク



- 思考し見つめる目と、大空に向けて開かれた手は、未来に生きる子どもたちの希望を象徴する。
- 4条の線でレタリングされた文字は、「川の街」旭川をイメージしている。

デザイン 森 清行
(旭川市立忠和中学校)

自らの心をより豊かに拓く造形学習の在り方

一人一人が造形的表現活動の喜びを実感するために

北海道造形教育連盟研究部長 菅原清貴
(札幌市立三角山小学校)

1. はじめに

長いイデオロギーの対立から解き放たれ、久しく無かった安住の地を人類は手に入れたかにも見えました。ところが事はそう単純ではなかったことが次第に明らかになってきたようです。

東西の対立の中で覆い隠されていた様々な過去の対立と新たな対決の構図が、噴出をはじめています。「民族」「南北経済格差」「宗教」古くもあり新しくもあるこの人類の抱える難題を複雑に絡んだ糸を解くように解決の方向に向けていくのも人間でしかできないのです。

21世紀も手のとどくところにきました。この地球を「宇宙船＝地球号」とよぶ学者もいます。人類が生き延びるには、「共生」の発想が必要なのだと説く人もいます。楽観論と悲観論が次世紀を語る時交差しています。

その中で、本当に必要なものは何なのか見極めることがますます重要になってきています。

人間として生を受けて願うことの一つに「豊かに生きたい」という欲望がだれにでもあります。

戦後焼け野原から、ひたすら豊かさを求めて欧米に追い付け追い越せと進んできたわが国ですが、そのかいあって経済的な「豊かさ」を謳歌できるまでになりました。しかし、同時に物質的な豊満社会の見直しを迫られてもいます。

それは、限りある地球資源を次世代に有効に活用していくことの大切さでもあります。大量消費の飽食時代から精神的豊かさへのシフトを必要としているのです。

さて、このような時代背景の中で、学校教育もこれまでの画一性・硬直性・閉鎖性を打破し個性の尊重、自由自立、自己責任の原則を確立することが、21世紀に向けてますます重要になっていきます。

2. 研究主題設定にあたって

第39回帯広大会から続いた主題を今年度から今日的な教育課題に対応するために改訂しました。

ここでは、「育つ力」は子どもに本来内在されているものであり、その力を後ろから後押ししてあげる（援助・支援）のが教師の任務であると考えます。つまり知識や技能を授けて報酬を得る職業的教師観から脱皮し「開発助成観」とでもいうべきスタイルを確立する必要があるのではないのでしょうか。

子どもは自ら意欲（「やりたい・やろう・やりとげよう」という意図実現までの意志と努力の結実した姿）を内在しているものであると考えます。その「やる気」を引き出し、連続されるならば、質の高い創造的な活動を生み出すことが可能になると思います。その時、子どもは生き生きと活動し、追求力や情意を高める姿を見せてくれるに違いありません。このような状況を醸成することが、「自らの心をより豊かに拓く」ものになっていくものと考えます。

与えられた美意識ではなく、自ら獲得した美的感覚が、造形学習を通して自然に培われていく姿を期待しています。

「ほんものは、どれだ！」という学習活動を計画したときの事です。木の葉を一枚いただいてきて、その葉を見ながら本物と同じ形・色の葉をつくり、それを木に貼り付けもどします。一年生が、本物と間違えたら大成功というわけです。その時、最も大切な行為があるのです。それは、木から葉を採る時にです。黙って千切ってきたらこの授業はそこで頓挫するのです。ひとこと「一枚くださいね」と囁くことが大切なのです。豊かな心でつくり、つくること豊かになる。これが造形教育でしょう。

3. 研究内容

副主題にある、造形的表現活動の『喜び』とは、問題を克服し困難な事態を通過してやりとげたという感動体験と成就感が一体となり喜びにつながるのでしょうか。それは、結果より喜びに至るまでのプロセスの実質が大切であることを強調することでもあります。

さらに、

- ・やりとげようとする意志力。(困難の克服)
- ・課題に対しての意欲的な姿勢。
- ・精神の高揚と自由な解放的環境。
- ・やりたくなる課題や場の設定。

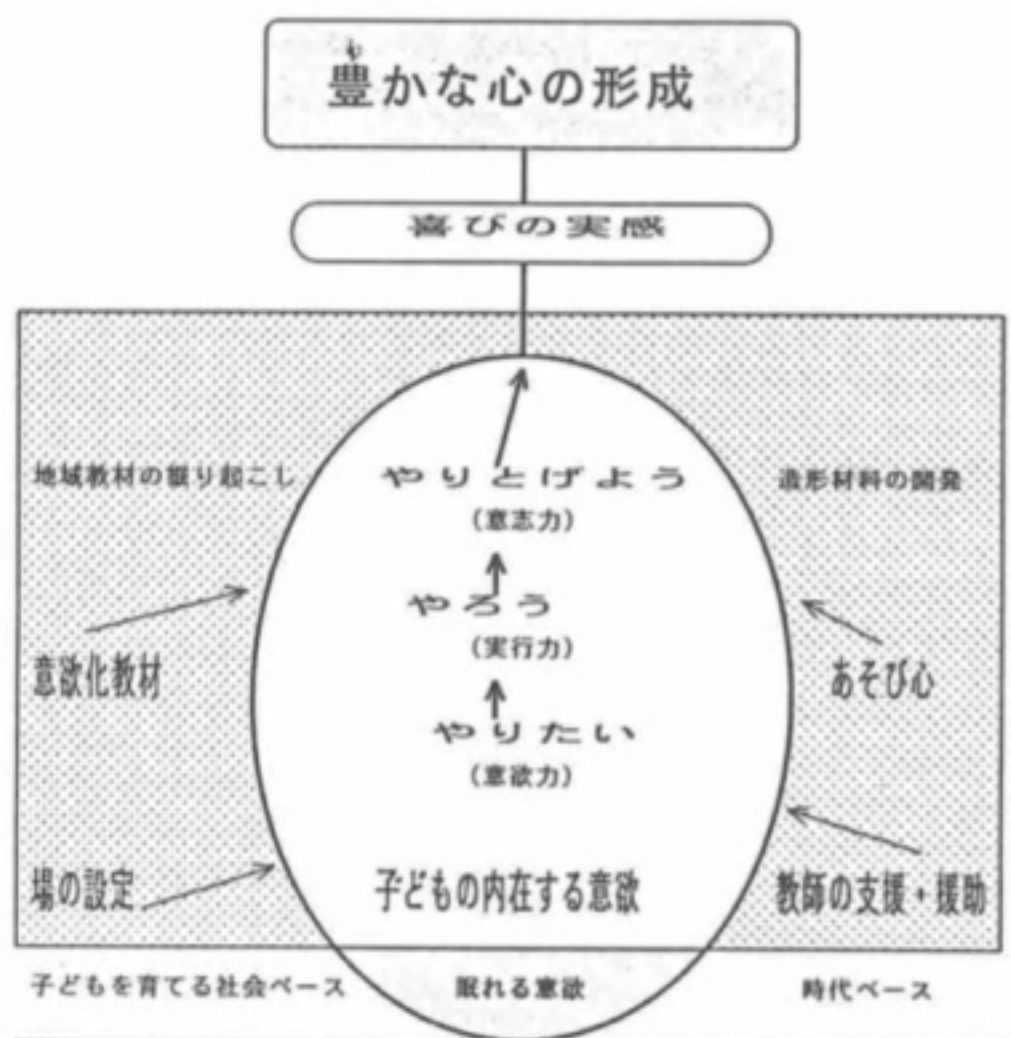
などで喜びは、さらに倍加することになります。

ところで、山口大学 岡田匡史先生は『美術を通しての教育』のめざす人間の成熟点として愛・協調・自制・他を受入れ理解する態度・利他主義・情緒面の安定などとしています。

『表現の喜び』を通して成熟した人間形成をめざす図工美術の授業を『美術の教育』(Artとしての教育)とバランスさせながら展開したいものです。

そこで<具体的追求課題>をあげると

1. 豊かな心とたくましさを育てる教育の充実の中で図工美術の担うべきものは何であるか。
2. 基礎・基本の重視と個性を生かす教育の調和的な達成をどう実現させるか。
3. 全身を使った体験的活動を大切に、さらに造形の生活化をめざす自主的・自発的な学習の促進をどう構築するか。
4. 地域の特性(北海道の自然・人間から生まれでる造形教育活動=北海道の造形活動のアイデンティティを確立する)を大切に活動の創造。



これらの課題を追求することは、我々教師の果たす役割を見極める活動でもあります。支援者・援助者たる教師像を語るだけでは前に進みません。

失敗を恐れることなく果敢に子どもの内在する意欲を掘り起こす実践を積み上げることが大切です。

『八百屋さんをだませるか』という教材を開発したときの話です。本物の野菜に半紙を貼り重ね張り子をつくります。それに着色するとき、黒板にただひとつ上記の言葉を書きました。(だますというのは、非教育的な言葉なのですが)すると普段図工嫌いの子までが夢中になって『本物』をめざしたのです。できた作品はそれは見事なものでした。ここにも、一つのヒントがありそうです。

4. おわりに

全道の造形教師の皆さんが持つ無限の力をこの大会を契機に、一つの輪にできないでしょうか。小さな交流からでも、何ができるのか模索し共に主題追求の全道ネットワークがいつの日か実現できたらと考えています。

旭川の形と色が、子どもの全身から鮮やかに発散する大会となることを期待します。

研究主題

「思いをあたため、心はずませる、創る喜びを」

旭川大会実行委員会研究部長 伊藤 有為男

I 主題設定の理由

近年の科学技術の進歩と経済の発展は、情報化の進展や物質的な豊かさを生むとともに、価値観の多様化などを招き、人々の生活や意識にも様々な変化をもたらすに至った。

とりわけ我が国の経済的繁栄は、人々の価値観を大きく変え、今日では、社会全体が経済的物質的な豊かさの追求から生涯にわたる精神的なゆとりと充実を求めるようになり、これに伴って人々の芸術文化に寄せる関心も高まってきている。

このような状況にあって、これからの学校教育においては、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成するとともに、基礎的・基本的な内容を身に付けさせ、個性を生かす教育活動を推進していくことが求められている。このことは、感性の教育を重視する中で、自分の課題を見つけ、考え、判断し、表現できる能力や態度を育てていくことに他ならないと考える。

そのため、図工・美術科においては、生涯にわたって芸術文化としての造形美術に親しみ、実践し、心豊かな生活を築くための主体的な意欲、豊かな感性、柔軟な発想や直感力、想像力を基盤とした創造性、基礎的な造形能力の育成を目指して、一人一人の子どもの個性や創造性を伸ばす授業や子どもらしい、しかもその子どもらしい造形的な創造活動の援助を工夫していくことが課題となっている。

したがって、これからは、学ぶ喜びや表現する楽しさを十分味わわせ授業を子どもの側に立って構築するとともに指導と評価の一体化等を図る必要がある。

全道造形教育研究大会は、過去四回旭川で開

催され、その度に多くの成果を得ることができたと自負しているところであるが、中でも、「つくる心のひろがりや深まりを求めて」をテーマとして掲げた第36回旭川大会においては、イメージを引き出し、気づきを大切にする手だてを位置付けた学習過程をはじめ、牛乳パックを使った家づくりや空き缶遊びなどの廃品を利用した表現や身近なものあるいは、丸太やウッドクラフトなどの材料、更には、冬のスポーツをテーマとした旭川の地域性が生きる題材を工夫するなど、子どもの生き生きとした表現を促し、喜びをもって表現できる子どもを育成する実践として高い評価をいただいたところである。

今大会においては、こうした実践成果を継承しながら図工・美術科の担う役割を果たすため五感を働かせて判断し、試み、心を動かし、思いをふくらませながら表現していくような子どもの育成を目指すことにした。すなわち、一人一人の表現欲求や願いを十分満足させる造形活動を通して、子どもらしい想像力を働かせた創造的な表現活動の喜びを十分味わわせる授業を構築することにした。

そのためには、まず、本来、子どもは表現活動に対してどのように考え、どのような思いをもった存在かを明らかにすることが大切であると考え、次のようにおさえた

- 子どもは、五感を働かせて、からだ全体で作り出したいと思っている。
- 子どもは、思いを持ち、様々に試したいと思っている。
- 子どもは、自分らしい素敵な夢を表現したいと思っている。
- 子どもは、知恵やわざをみがき、表現したいと思っている。

また、このような子どもの思いや願いを援助していく教師の在り方として、次のような姿を考えた。

- 子どもの自由な発想を認める柔軟な感性をもつ教師でありたい。
- 子どもの主体的活動を温かく見守り、よき相談者としての教師でありたい。
- 子どもの様々な表現を、その子の魅力であると共感できる教師でありたい。

このような考えを基に、子ども一人一人の確かな表現や感性の高まりを目指し、本研究主題を設定したのである。

II 主題について

子ども達にとって表現とは、自分の感情の動きによって生じた一つの思いのまとまりのイメージを、何らかのかたちにする行為であり、何らかの方法を選び、表現しながらより明確にしていくものである。したがって、豊かな体験（魅力ある題材等）との出会いや、心を動かす体験を通して、思いをより確かなものにしていくものでありその思いが生かされたとき、子ども本来の生き生きとした表現になっていくと考える。

このようなことから、本研究主題で目指すものを、次のようにおさえている。

「思いをあたためる」とは

子ども一人一人が、自分の好きな形や色、材料などで表したり、つくったりする活動を楽しむには、様々な事柄やものに興味・関心を持ち進んで見たり、触れたりして、自分なりに表現したいという思いが表れ、より確かな思いへとふくらむ環境が必要である。

そのためには、子ども達一人一人が、五感を働かせ、心を動かし、表現への思いを巡らす多様な体験や地域の自然や身近な素材との出会い地域の人々との心の交流など、地域環境を生かした直接体験や生活実感を豊かに味わうことのできる豊かな体験などが大切となり、このような体験によって、つくる心、みつけだす目、つくる姿勢に刺激を与え、表現したいという欲求

が高められるものとする。また、子ども達はいろいろな材料を集めながら、あるいは、その材料に触れたり、組み合わせたりする遊びの中から自分の思いをより確かなものにしていくのであり、このような活動を通して子ども一人一人の感性をより豊かにしていくものとする。

このようなことから、子ども達一人一人が、表現への思いを主体的により確かなものへとあたためていく活動を重視していくことにする。

「心はずませ」とは

自分らしい思いを持つことは、個性をつくりだす源となり、その子らしい思考、判断、表現や活動を生み出すエネルギーとなる。そして、自分らしい思いが生かされたとき、意欲が高まり、自分の思いに基づいた主体的な表現活動を促され、「こんな材料・用具で、こんなことを試したら、いったいどうなるだろう。」などと更に思いをふくらませ、より豊かな思いへと自分らしさを発揮していくものとする。

また、子どもは、自分の思いが生かされたとき、自分らしい課題を見つけ、その解決に向けて取り組み、試行錯誤を重ねることで思いを広げ、深めるという創造的な活動を展開していくものであると考える。

このように、子ども達は本来、素直に、いろいろなものにかかわり、感じ、考え、試み、夢を描くものであることをおさえ、表現活動の過程において、子ども一人一人が心はずませて活動できるように教師が支援していくことが大切であると考えた。

III 主題にせまるために

思いあたため、心はずませ、創る喜びのある活動を進めるためには、活動を子どもの側に立って考え、子どもの心の内面に呼びかけ、その子の表れの全てをよさとして共感していくことが教師に求められている。

このようなことから、教師は、子ども一人一人の考えや思いを受け入れ、子ども達一人一人への思いをこめた提案や思いが広がる教材の開発など、子どもの実態に応じた教材研究を一層

深めていくとともに、子ども一人一人の造形に対する傾向・意欲などに対応した適切な指導内容・方法を用意し、自分で考え、判断し、選び出し、つくり出すという自主的な態度を身に付けさせるようにすることが大切である。更に、子ども達一人一人が豊かなアイデアを持ち、創意工夫を加えながら、よさを発揮していくための創造的な技能を育てていくことも大切である。このように、思いをあたため、心をはずませる創造活動の実現を目指して、子ども一人一人の活動を共感的に受け止め、それを支援していく学習の在り方を求めていくことにした。

IV 研究仮説

子どもの自由な発想や表現意欲を高める題材の開発と個性を生かす学習課程や指導方法、指導と評価の一体化を工夫することによって、自分らしい課題を見つけ、喜んで取り組む主体的な表現活動が促され、感性豊かな子どもをそだてることができるであろう。

V 研究の視点

これまでの実践の成果を基盤にして、子どもの側に立った教育活動の展開を通して、一人一人の感性の高まりを求めるために、次のような観点に立って研究を推進することにした。

1 題材の開発

- 子どもの多様な発想を引き出す、地域の自然や文化を活用した教材の工夫
- 指導のねらいに即し、一人一人の思いを深める教材の工夫

2 指導課程の工夫

- 子どもの心をはずませ、創造的な表現意欲を高める教材や材料との感動的な出会いの場の設定
- 子どもの心をゆり動かし、感動体験を与える場の設定
(思いをじっくりあたためる場の設定)

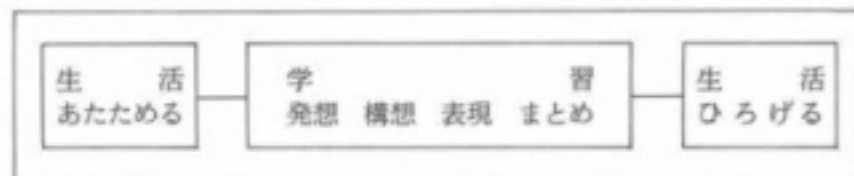
- 子どもが題材と深くかかわり、主題に基づく豊かな発想を促す場の設定
(ドラマチックな場づくり…資料提示の工夫や教育機器の活用等)
 - 思いに応じて、心はずませて表現する時間や場の設定
(表現の方法や技法・材料の選択、子どものリズムやペースでも表現への援助)
- ##### 3 評価の工夫
- 表現意欲を高め、表現の喜びを味わわせる評価の改善
(評価観点の位置付け、自己評価の活用、学習カードの活用、指導・援助の工夫)

VI おわりに

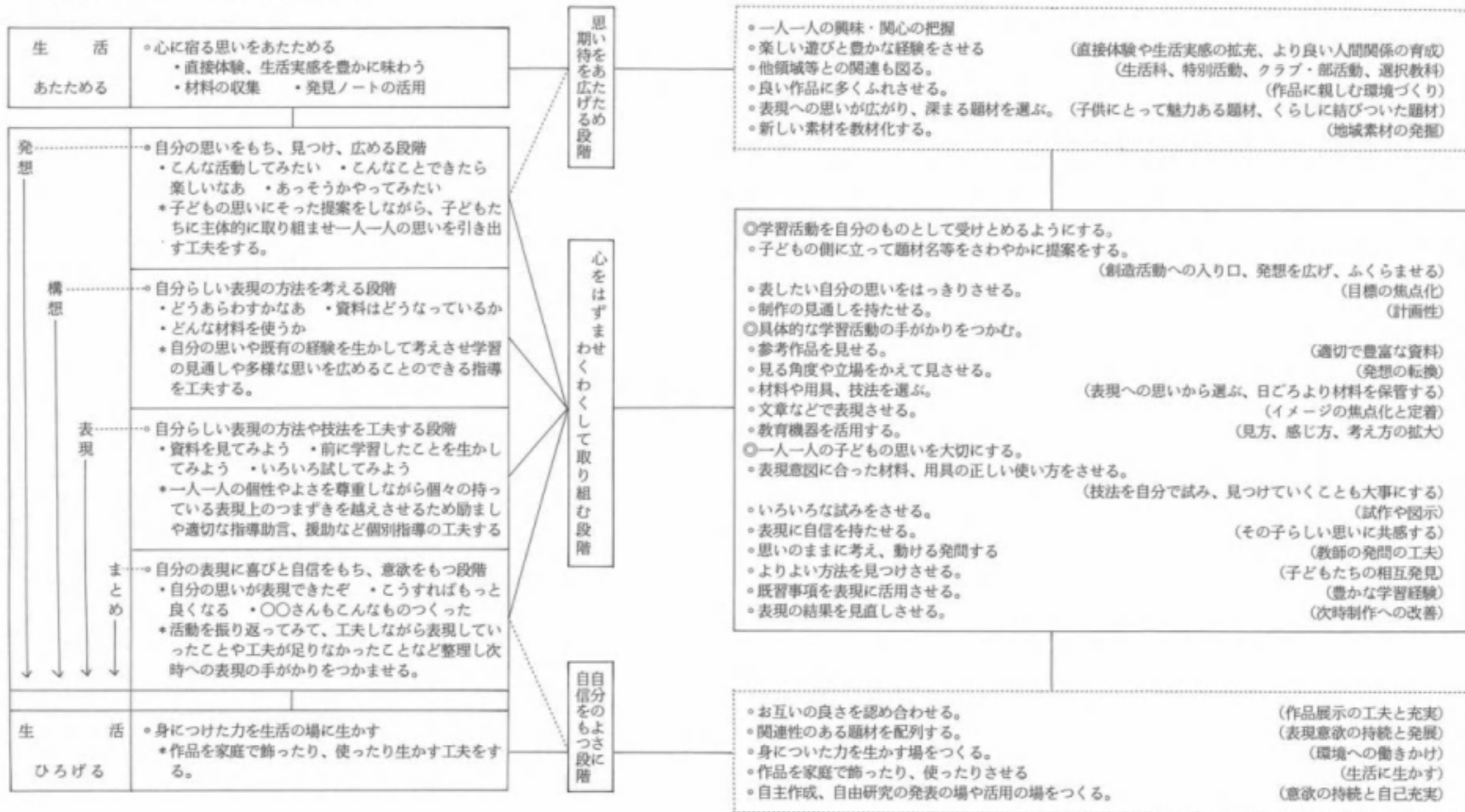
本研究会のテーマ及び内容等については研究部員を中心に一昨年来検討し、実践を重ねてきた。

なお、研究に際し、北海道教育庁上川教育局・旭川市教育委員会関係各位のご指導をいただき、特に上川教育局川上典指導主事および北海道教育大学旭川校助教授武田薫先生には共同研究、参考資料の提供をいただきました。

学習の基本過程

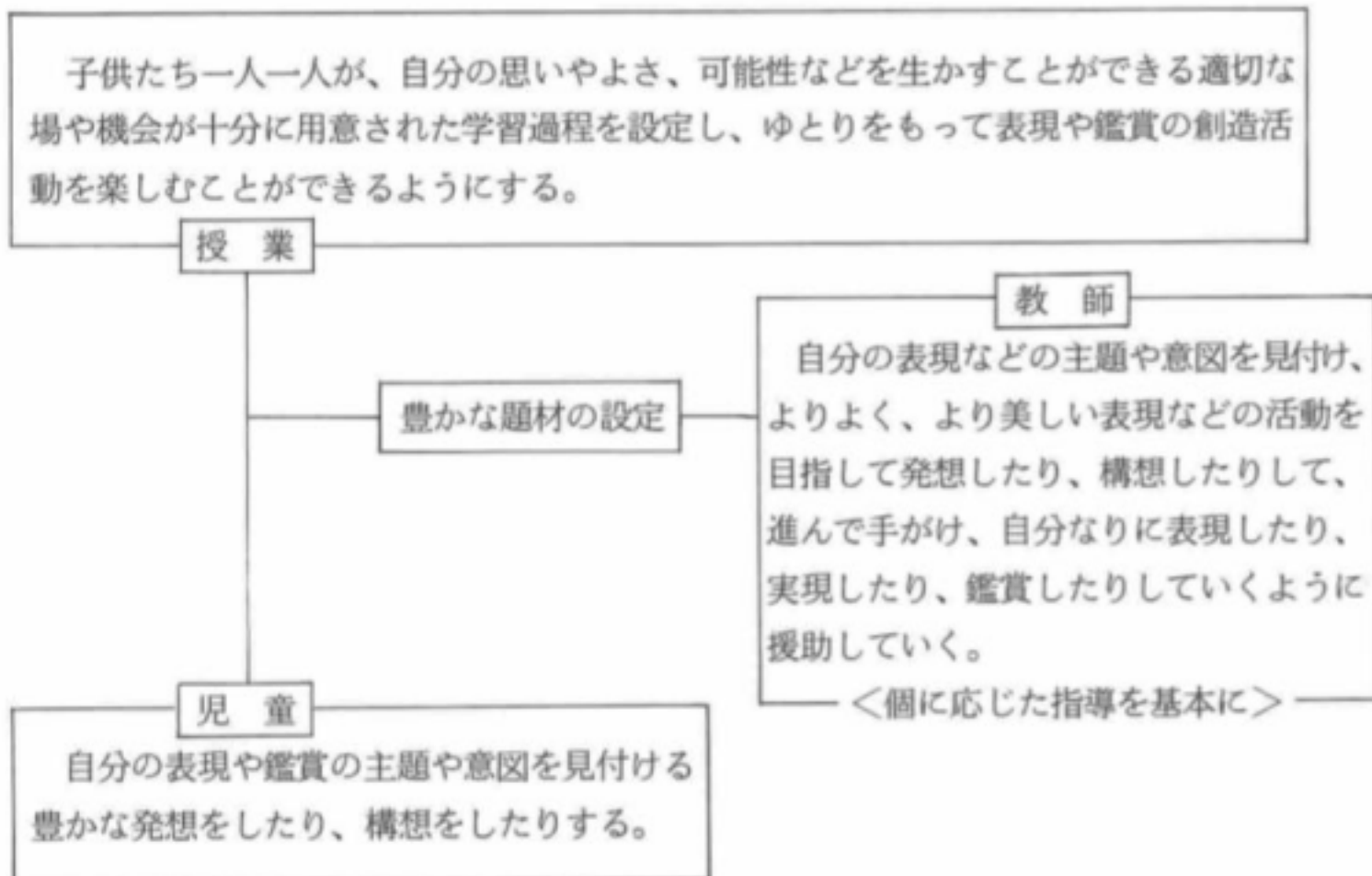


各段階での指導の工夫と手だて



＜新しい学力観に立つ授業の構想と創造的な展開＝基本的な考え＝＞

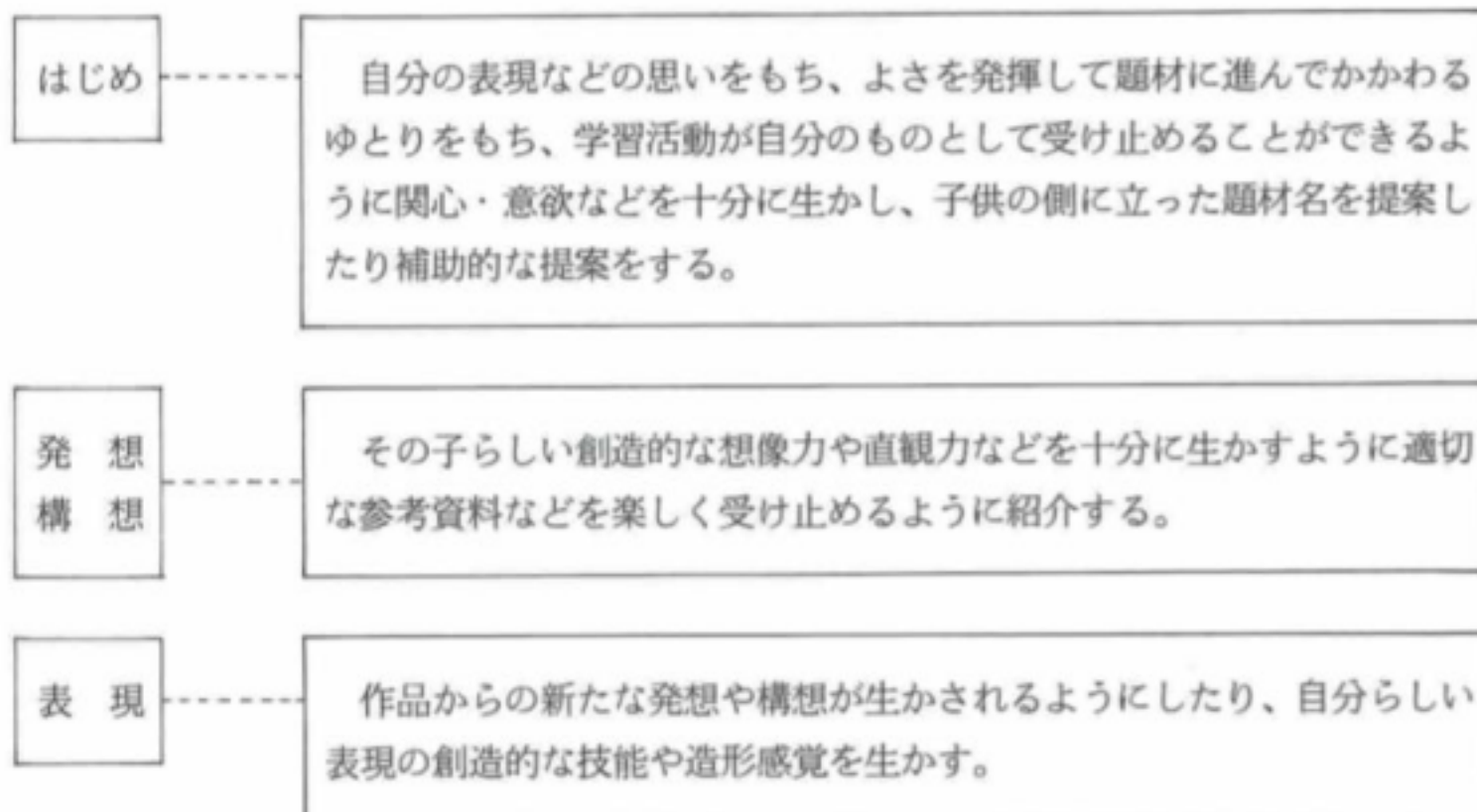
1 授業の構想



2 創造的な展開

子供たち一人一人が進んで手がけ、より望ましいかたちで、よさを発揮し、豊かな自己実現としての学習活動を展開する。

また、表現のための材料・用具、表現方法、大きさなど、可能な限り、子供が自分の表現の思いに合わせて選ぶようにして、よりよい表現のための創造的な技能などを見付けるような提案を行うことが大切である。



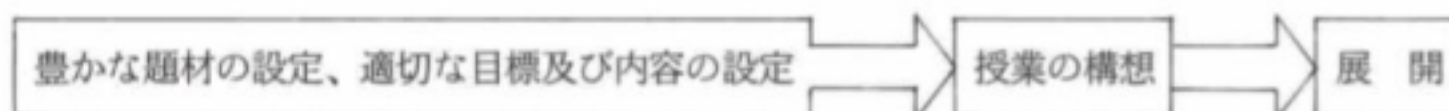
3 よさや可能性を生かす教育姿勢・構え（教師のよさ）

- ① 子供たちが自分らしい表現などの主題や意図を見付けることができるように子供たちの思いを感じながら、さわやかに提案や支援をする。
- ② 子供たちが進んで自分のよさや可能性を発揮する場や機会をひろげる。
- ③ 子供たちがよさや可能性を生かして、思いのままに動き、試みることができる創造的な雰囲気をつくる。
- ④ 子供たちがよさや可能性を生かすゆとりやチャンスをつくる。
- ⑤ 子供たちが学んだことを生かしたり、気になることなどを確かめたり、自分の表現などの行為などを温めたりする場や機会をつくる。
- ⑥ 子供の側に立って、子供のよさや可能性を感じ、学ぶように、幅のある共感的な認めをする。
- ⑦ 子供たちが自分の思い、考え、判断、表現などのよさや可能性に気付くようにする。

<授業構想の実際>

1 子供たちの実態の把握（共感的な理解）

- ◎ 授業にかかわることを中心にした子供一人一人の実態を適切に把握する。（総合的に）
子供一人一人の表現の思いや意図、発想や構想、具体的な表現の在りようなどのよさに共感したり、個に応じた適切な提案などによる支援のために必要である。



2 豊かな題材の設定（授業の要）

- ・ 題材とは、目標及び内容、材料・用具、表現方法・過程、指導方法などを総合的に構想したまとまりのことである。
- ・ 題材名とは、題材の総称であり、子供たちが自分らしい表現の思いや主題、意図などを見付け、望ましい学習活動を進んで展開するようにすることを重視して子供たちのために付けられるものである。

(1) 学習の主題の設定

題材の目標や内容などを総合して示し、その学習活動の意義などを象徴的に表し、この趣旨に基づいて授業を構想し、展開する。

したがって、授業で目指す資質や能力、学習指導要領に示された目標及び内容、子供の実態などをふまえて設定する。

(2) 豊かな題材の選択

題材とは、子供にとっては学習活動のまとまりのことであり、教師にとっては、学習指導のまとまりである。つまり、指導の目標及び内容、学習や指導の計画、方法などが総合的に構成されたまとまりである。

したがって、子供たちの関心や経験などの実態を十分考慮し、よさや可能性を発揮して学習したり、題材のよさからも学ぶようにする観点から選択することが大切である。

(3) 題材名の工夫

子供たち一人一人が、学習の主題の趣旨にそった学習活動ができる表現や鑑賞の思いや主題、意図などをもつことができるようにするとともに、想像力をはたらかせて表現や鑑賞の創造活動のイメージが心の内に描けるようにする。

したがって、短い表現でなければならないということではなく、複数で表現したり、補助的な題材名を付けたりするなどの工夫が必要である。

いずれにしても、題材名は、創造的な学習活動へ子供たちを案内するはたらきをしたり、「このような活動はどうか」というように表現の発想や構想などをふくらませるようになるための提案であり、図画工作科の学習活動の重要な役割を担っている。

(4) 授業（学習活動）の意図と可能性を明確にする

授業（学習活動）の全体構想と授業の意図や可能性を明確にするとともに、子供たちの実態、よさや可能性を生かす指導の工夫の要点を明らかにする。

(5) 指導の目標の設定

題材の指導の目標は、学習指導要領に示された学年の目標や内容、観点別学習状況評価の観点、子供の実態などをもとに設定する。

その際、授業で期待する子供たちの望ましい姿が具体的にイメージできるように表現する。

(6) 内容の設定

指導の目標にそって活動する具体的な姿で示す。

〔例〕

「はさみの正しい使い方を知る」

「題材名や材料などから表現の主題を見付け、発想や構想をするようにする。」
「表現のイメージに合わせて、色や材料、用具などを選び、進んで工夫して表すようにする。」

(7) 指導の計画の工夫

- 子供たちが自分のよさや可能性を発揮しながら図画工作科の目指す資質や能力を獲得するような学習活動が展開できるおよその学習の過程を示す。
- 子供たちの学習経験などの実態、一人一人の表現の思い、発想などのよさが発揮できるようにする場や機会を明確にしておく。
- 学習に充てる時間は、同じ題材であっても、子供たちの学習経験や関心などの違い、指導の重点のおき方などによって異なるものであり、柔軟な計画を作成する。

(8) 準備の工夫

- 準備には、材料や用具の他、環境を構成することも含まれ、子供たちの経験などの実態、関心、表現のひろがりなどを考慮する。
- 子供たちが、進んで自分の表現や鑑賞などの学習活動に合わせて準備することも大切であり、表現などの活動のひろがり期待できる。
- 材料などについては、学習活動ごとに限定するのではなく、どの学習活動においても自分で選んで活用できるようにする。

(9) 評価の観点と工夫

指導の目標に対応するように評価の観点などを設定し、指導に対応するかたちで評価の場や機会などをおよそ設定し、子供たちの学習活動の展開の流れの中でも、いつでもよさを共感的に評価するようにする。

観点別学習状況評価の観点に示す資質や能力が具体的になっている

＜授業の創造的な展開＞

子供たちの学習活動の流れとそれを支援する教師の活動及びよさを生かす手だてや姿勢が快くひびき合うようにする。＝柔軟に対応すること

導
入

1 学習活動を自分のものとして受けとめるようにする
子供たち一人一人が、自ら学習活動に向かう望ましい状況をつくり出す。
学習の主題、題材名の紹介
(子供たちの側に立って)
さわやかに提案

- ・複数の題材名や補充の提案の準備
- ・自分の表現などの主題や意図などを見付けるように個に応じた提案

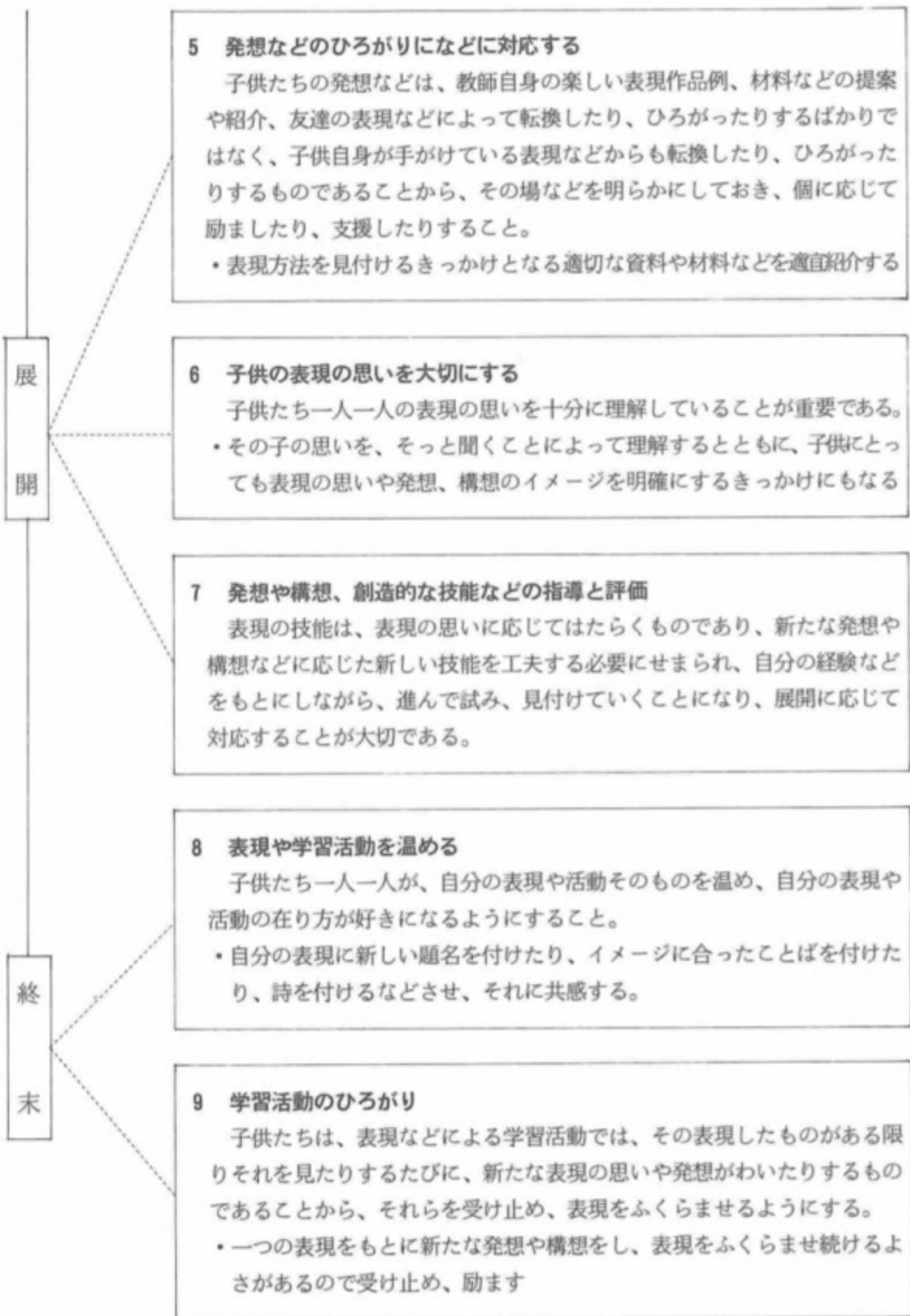
2 具体的な学習活動の手がかりをつかむようにする
表現などの具体的な手がかりをつかむような参考資料を紹介したり、手がかりとなることばかけなどの手だてを講じる。

3 展開の過程において評価するようにする
子供たち一人一人の表現などのよさや楽しさを味わうようにゆったりした気持ちで付き合うようにして、愛情をもって感じとったり、学びとったりし柔軟に対応する。
指導計画に明示し、指導と評価を一体化する

展
開

4 材料・用具、技術や技法の指導の工夫
子供たちが自分の思いの表現を楽しむことを通して、見付けたり、選んだりして生かしながら、自分のものとしていくようにする。

- ・表現活動などの展開の状況に応じて、材料を補充したり、紹介したりする
- ・環境の一つとして、子供たちの活動の近くに材料をおき、気付いて生かすようにする
- ・技法などは、子供たちが表現の思いに合わせて表現を工夫する過程において、気付いたり、獲得したりする



公開授業

校種	内容・分野	学年	題材名	授業者
幼稚園	表現	5歳児	動物を作って遊ぼう	平 広子 (旭川くりの木幼稚園)
		5歳児	動物を作って遊ぼう	長尾寛子 (旭川ふたば幼稚園)
小学校	造形あそび	1年	うつつた・うつつた	坂本 幸 (旭川市立東五条小学校)
		4年	何ができるかな?	宮本佳世 (旭川市立東五条小学校)
	絵にあらわす	5年	私 の 家	武田千恵美 (旭川市立神居小学校)
		6年	見て聞いて驚いたあの修学旅行	横川香代子 (旭川市立永山小学校)
	つくりたいものをつくる	4年	ころころドキドキ楽しいしかけ	佐藤修司 (旭川市立緑新小学校)
	立体にあらわす	6年	大空にとびたとう	垣内寛子 (旭川市立永山西小学校)
中学校	絵画	2年	私の不思議な世界	森 清行 (旭川市立忠和中学校)
	デザイン・工作	2年	手作りオリジナル壁掛けを作ろう	井山和博 (旭川市立永山南中学校)
	彫刻	2年	ゆかいな仲間 (~をする友達)	畠山 勝 (旭川市立神楽中学校)

指導案



愛宕小学校 4年 大杉 香織

※幼稚園、5歳児 動物を作って遊ぶ ※※※※※※※※※※

主題名

動物についてのイメージを豊かにし、全員が楽しめる動物づくりをして遊ぶ。

題材名 「動物を作って遊ぼう」



くりの木幼稚園きりん組28名
指導者 平 広子
ふたば幼稚園きりん組36名
指導者 長尾 寛子

1. 本日のねらい

一人一人が動物のイメージを豊かにし、伸び伸びと制作して、みんなで楽しく遊ぶ。

2. 保育の内容

動物を制作し、友達と楽しく遊ぼう。

5. 展 開

時 刻	環境の構成・教師の働きかけ	予想される幼児の活動
8:00	・挨拶を交わしながら視察する。	・登 園
8:20	・会場に到着する。 会場の雰囲気慣れさせる。	・会場内を歩き回る。
8:40	・動物のイメージをふくらませるように 雰囲気をつくりだす。	・落ち着きのない子もいる。
9:00	・制作に必要な材料・場所等を説明する。	・興味を持って話を聞き、制作に熱中する。
9:20	・動物のイメージをふくらませ、伸び伸びと 制作できるように言葉掛けを工夫する。	・制作した動物で遊ぶ。
10:10	・他園との交わりを確認する。	・新しい友達を発見する。
10:20	・子供達に感想を尋ねる。	・意見発表をする。
11:00		・帰 園、降 園

3. 活動の計画

年長になり、グループ活動が始まったことで、交友関係が深まり、協力する姿が見られるようになってきた。

この様な時期に、他園の園児と一緒に交わり、意見を出し合いながら、身近かな素材を生かして遊びを広げることが出来るように、両園の保育者が共通理解のために、数度の協議会を開催したりして、また、園児同志の交流会を設定したりして、環境構成をしてきたのである。

4. これからの計画

遊びの中で、子ども同志がお互いのアイデアを生かし、身近かな素材を取り入れたりして、工夫をはかりながら遊びを発展させていきたい。

学習の主題

身近にある材料を使って、型押し遊びをして楽しもう

題材名 「うつった・うつった」



旭川市立東五条小学校
指導者 坂本 幸

1. 学習活動の意図と可能性

真っ白な大きな紙を前に、「何をするんだろう」と、胸をときめかせているであろう子ども達。「学級の汽車『なかよし号』を走らせる線路をつかって、みんなで汽車ごっこをして遊ぼう」と言う、教師の呼びかけで、一人ひとりの子ども達が、思いのままに自分らしさを発揮し自由に表現しながら、造形活動が進んでいくものと考えられる。

この発想の広がり、一人ひとりの活動から集団の活動へと移行していき、仲間での活動することの楽しさを味わわせ、表現活動の幅の広がりをも期待できるものとする。

2. 指導の目標

- ア、児童一人ひとりが、自分の思いで主体的に活動し、楽しもうとする。
- イ、できたものを、見たり楽しんだりすることに関心を持ち、その楽しさを味わおうとする。

3. 指導の計画

2時間

- ア、教師の話から、イメージをふくらませて自分の思いで、線路をつくる。1時間
- イ、線路のまわりに、型押しをして、にぎやかで楽しい線路にする。1時間-(本時)

4. 本時の目標

線路のまわりに型押しをして、にぎやかで楽しい線路をつくり、汽車ごっこをして楽しむ。

児童の活動の流れ	指導上の留意点(支援・評価等)
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 前時の学習のようすを話し合う。 ◦ 本時の活動内容を知り、イメージをふくらませる。 ◦ 自分の思いで、線路のまわりに型押しをする。 ◦ 線路を並べ、汽車ごっこをして遊ぶ。 ◦ 楽しかったことや工夫したことなどを、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 型押しのかたを紹介する。 ◦ 色のつけ方・押し方等について支援する。 ◦ 学級活動の時に作った『誕生列車』を利用する。 ◦ 少し高いところから作品を見せる。

学習の主題

牛乳パック、空缶などの材料を使い、その特徴を生かして表現活動を楽しむ。

**題材名 「何ができるかな」
— ガンバの森 —**



旭川市立東五条小学校
指導者 宮本佳世

1 学習活動の意図と可能性

学級は、大変活発で元気のいい子どもたちばかりである。四年生になって、今まで以上に友だちのつながりが深くなり、集団で活動したがるようになってきている。

そのため、今回は子どもたち一人ひとりの発想を広げ、また意見交流や相談し合うことを通してお互いに刺激し合いながら、のびのびと表現活動を楽しませたい。

牛乳パックや空缶を使って、学級の愛称である「ガンバ」の森をイメージしながら造形あそびとして展開したい。

2 指導の目標

- ア 身近な材料の形や色、材質を生かして、表現活動を楽しむ。
- イ 自分で材料を選択したり、収集したりする。
- ウ 形が崩れないように、じょうぶな接合を工夫する。

3 指導の計画 (4時間)

- ア 牛乳パックを積みあげて柱状のものをつくる。
- イ 何ができるか話し合う。
 - 材料に触れ、思いを広げる
 - どんな遊びができるか
 - 必要な材料や用具について
- ウ ガンバの森をつくる。
 - 個人又はグループで、見通しを持ってとりくむ
 - お互いに刺激し合い、アイデアを出し合う
 - できた物をお互いに鑑賞し合う

4 本時の目標

牛乳パックの柱からイメージして自分の思いが生きるように、材料の形や材質の特徴をいかしてガンバの森をつくる。

児童の活動の流れ	指導上の思意点(支援や評価等)
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 本時の学習の見通しを持つ。 ◦ ガンバの森づくりにとりくむ。 <ul style="list-style-type: none"> ・ しかけを中心に变化させる ・ 飾りを中心に变化させる ◦ 感想を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 友だちのアイデアの良さにふれさせる。 ◦ 材料の扱い方、接着の仕方などについての質問やつまづきについて、援助や励ましをする。 ◦ アイデアの良さや材料をうまく活用したところなどを見つけ、励ましたり賞賛する。

学習の主題

自分だけの色と形で表そう

題材名 「私の家」



旭川市立神居小学校
指導者 武田 千恵美

1. 学習活動の意図と可能性

本題材は「自分の家」という、身近なそして自分自身を形成している場所を構想的に描くことにより、表現力をつけることをねらいとしている。つまり、自分の家で「見たこと」「感じたこと」「想像したこと」など、トータルに家を見つめ直し、それを素材として一つの平面に構想していくことにより、私自身の日常（表現内容）と私の表現（表現形式）とを考え、表現させたものである。

このことにより、テレビやマンガ、ファミコンなどの映像から受けたものを越えて、それらを抱え込みつつ、本来的な日常生活の中から自分の色や形のはじまりを探らせる。そのことにより、子ども自身に、自分の体の中にしみ込んでいる日常の中にある大切なものに向けさせ、自分で主題を見つけ主体的にそれをイメージし、自分なりの色や形を探り構想させようというものである。

指導にあたっては、私の表現に集中・持続させるというプロセスの中で、誰の世界でもない私の世界を発見・創造していく楽しさを見せることに留意している。

2. 指導の目標

- ア 言語による表現のための内容を、シンボル化してまとめていく過程を通して、構想力を養う。
- イ 自分にとっての「家」について考えることにより、「家」に対する大切な思いを認識し、そういった生きた日常の内容が表現を生むことを自覚する。

3. 指導の計画（13時間）

- (1) 家の意義について聞く。…………… 1時間
- (2) 家の中で自分にとって大切なものについて作文する。…………… 1時間
- (3) 作文をもとに下絵を構想する。… 2時間
- (4) 下絵を描く。…………… 2時間
- (5) 色をつける。…… 6時間（本時 5 / 6）
- (6) 自分や友達の作品を鑑賞し、「活動」や「作品」について感想文を書く。…………… 1時間

4. 本時の目標

- ◎ イメージに合った色の手法を引き出して、集中して表現することの楽しさを味わう。
- ◎ 相互鑑賞や発表を通して、自分とは違う考え方、表現方法に気づくとともに、自己の表現方法を知る。

児童の活動の流れ	指導上の留意点（支援や評価等）
<p>① 自分の表したいことと、色の手法で工夫したいことを発表する。</p> <p>② 主題がよく表れるように彩色する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表したい自分の思いが表れるように、自分なりに試みながら彩色する。 <p>③ 作品を見せ合いながら話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のがんばったこと、発見したこと、気がついたことを発表する。 ・ 友達の作品で工夫しているところや良いところを見つけ、発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達の内容と表現方法を、個性として理解させる。 ○ 行き詰まった場合には、表現内容をもとに、あくまで引き出すことを中心に、個別指導する。場合によっては形の変化もあり得る。 ○ 自他の作品の表現の違いや良さに気づかせ、次時への意欲を持たせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ グループで話し合う。 ・ 全体の場で発表し合う。

※※※小学校、6学年 絵に表す(版画)※※※

学習の主題

自分なりの表現で木版画をつくろう

**題材名 「見て 聞いて 驚いた
あの修学旅行」**



旭川市立永山小学校
指導者 横川 香代子

1. 学習活動の意図と可能性

小学校生活の中で最も深く心に残り、忘れられない思い出になるであろう修学旅行。実際に自分達の五感を働かせての体験は、大きな感動となって心に刻まれていくことと思う。

ここでは、身体全体で体験した感動を自分の感情や感覚に結びつけて、自分なりの表現の仕方木版画として表すことを学習活動の中心とした。一人ひとりが感じ、受けとめたものは個々様々であり、その思いは自由に自分の世界の中に広がっていく。そのことを「見たこと」「感じたこと」「想像したこと」として、まず一つは、画用紙の中で構想を練りながら表現していく。もう一つは彫りの効果を考えながら版の中で表現していく。

本題材では、そうした活動の中で、観察力、想像力、計画性、用具の扱い方などを身につけ、白と黒を基調にした単純明快なリズム感や素朴

な力強さ、美しさを感じとりながら自分なりの表現の喜びを味わうことをねらいとしている。

2. 指導の目標

- ア 体験したことをもとに、最も強く表現したい思いを絵で表す。
- イ 黒と白を基調にした刷り上がりの効果を考え、自分なりの表現の仕方木版画をつくる。

3. 指導の計画 (14~16)

- (1) VTRなどを見ながら修学旅行を振り返り、話し合ったり印象に残っていることを文章表現することにより、自分なりの表現への思いを持つ。……………②
- (2) 感動が表れるように自分なりの表現の仕方木版画に描く。……………④
- (3) 絵をもとに、白、黒の効果を考えながら版をつくる。……………⑥
- (4) ためし刷り、本刷りを行う。……………②
(本時½)
- (5) 刷り上がった作品を鑑賞し、自分や友人の作品の表現の良さを認め合う。……………①

4. 本時の目標

- (1) 刷り上がりの状態を考えながら、刀などの使い方を工夫し彫り進める。
- (2) インクをよく練り、ためし刷りをして全体の調子を見ながら修正彫りをしていく。

児童の活動の流れ	指導上の留意点(支援や評価等)
① 彫り進んだ木版を見つめ、効果的な彫りを考える。さらにためし刷りした作品を見て、修正彫りの仕方を知る。	○ 全体の調子を見ながら、インクのつき方や彫りの浅い部分に目を向けるようにする。
② 効果的に彫り進める。	○ 一定の作業計画は立てるが個々のペースを大事にし、彫り進み具合を見て励ます。
③ 彫り上がった版からためし刷りをする。	○ ローラーやプレス機の扱いなど、なるべく子ども同志で協力し合うようにする。
④ ためし刷りの作品を見ながら、修正彫りの必要な部分を彫っていく。	○ どう修正したらよいか迷っている児童には、話を聞きながら助言していく。
⑤ ためし刷りの作品を並べて見ながら、表現したかったこと、修正彫りで表現したいことなどを発表する。また、友達の作品のよいところを認め合う。	○ 思いが表現されているところを認め、よさを賞賛する。

※※小学校、4学年 つくりたいものを つくる※※

学習の主題

その子らしい思いや願いで、思いきり表現する

題材名 「ころころ どきどき 楽しいしかけ」



旭川市立緑新小学校
指導者 佐藤 修司

1 学習活動の意図と可能性

この題材は、材料に対して思いのままに想像を膨らませ、おおよその見通しをもちながら、協力してつくる活動を楽しむことをねらいとしている。

この時期の子ども達は、手の働きが巧みになり、手を働かせてものをつくりたいという欲求の高まりが見られる。そこで、木材を中心とした「ジャンボコリントゲーム」というゲームづくりを通して、その造形感覚を思いきりぶつけさせることによって、創造的な工作の能力を養いたい。

また、個性豊かな子ども達一人一人の思いを大切にしながら、それぞれのアイデアを認め合う中で、よりダイナミックな発想の広がりを求めてグループでの活動を設定した。

指導にあたっては、子どもの思いを優先し製作に必要な技法等は、その過程で必要に応じて習得させたい。また、つくりながらの思

いつきの良さを認め、次々に発想が膨らみ、意欲が継続するよう留意したい。

2 指導の目標

- ア. 仕組みや簡単な仕掛けを、思いのままに発想するとともに、つくり方などを自分なりに工夫し、見通しをもつ。
- イ. グループの計画の中における自分の発想に合わせて、材料や用具を選び、手と心を働かせてつくる。
- ウ. 目的に合わせ、遊びながらも、確かめ工夫し、製作することの楽しさを味わう。

3 指導の計画 (8時間)

- (1) どんな仕組みが考えられるか話し合い、思いを広げる。(1時間)
- (2) 釘の位置・仕掛けの配置やデザインを簡単な図に表してみる(1時間)
- (3) 仕掛けに必要な材料を探したり選んだりして、工夫しながら計画に合わせてつくる。(4時間)
- (4) つくったものを、確かめたり遊んだりしながら、仕掛けの手直しをして完成させる。(1時間 本時)
- (5) 完成したもので遊びながら鑑賞し合う。(1時間)

4 本時の目標

自分達の思いに合わせて楽しくゲームができるように、製作の途中で発想したことなども生かして、手直しをし完成させる。

児童の活動の流れ	指導上の留意点(支援や評価等)
① つくったものを確かめたり遊んだりしながら、手直しの部分を発見する。	<ul style="list-style-type: none"> ・仕掛けがうまく機能しているかを玉の動きに目を向けて考えるように助言する。 ・思いつきの良さも認め、励ます。 ・一人一人が自分なりの造形感覚を出して、協力しながら参加しているか。 ・必要と思われる材料、用具の準備をしておく。
② 手直しについてグループで話し合い、協力しながら製作する。	
③ 手直しで工夫したことを発表する。	

学習の主題

素材の特性を生かし夢が広がる立体表現

題材名 「大空に飛び立とう」



旭川市立永山西小学校
指導者 垣内 寛子

1 学習活動の意図と可能性

5年生の題材「宇宙船づくり」で未来のクラス会を「月」で開こうと夢をふくらませ、自分達で集めた材料で、さまざまな宇宙船をつくった。この学習では自分の思いを広げながら意欲的に取り組む姿が見られた。

そこで本題材では自分の夢を「鳥」に託し大空へはばたく姿を表現させたい。素材は子供達が経験を生かし積極的にみつけたものの中で、身近にありながらあまり扱っていない発泡スチロールやアクリル板、エンピ板などに着目させたい。エンピ板などは可塑性があり簡単に曲げることもでき、芯材としても素材としても適切なものと考えられる。

このような素材経験をすることにより、造形的な興味・関心が広がり、自分の思いをより豊かに表現し、つくる喜びを味わえるものと考えられる。

2 指導の目標

- ア、未来の自分の夢を鳥の翼や姿勢に投影し、表し方の構想を練って立体に表す。
- イ、素材の特性を生かしてつくる。
- ウ、友達と協力したり、作品のよさを認め合ったりする。

3 指導の計画

- ア、未来の自分の夢を考え、鳥になって大空に飛び出す姿を話し合う。その思いを鳥に託し、アイディアスケッチをする。
(1時間)
- イ、自分のつくりたい鳥のイメージをふくらませて構想を練り、材料を考える。
(1時間)
- ウ、自分の構想をもとにして「鳥」をつくる
(5時間 本時 $\frac{5}{5}$)
- エ、完成した「鳥」を鑑賞し、自分の夢に向かっていく喜びを味わう。
(1時間)

4 本時の目標

自分の発想・構想をもとに素材のよさを生かし、工夫しながら「鳥」をつくる。

児童の活動の流れ	指導上の留意点(支援や評価等)
<ul style="list-style-type: none"> ○自分の夢と構想を確認する。 ○「鳥」をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・紙粘土で肉づけする。 ・全体のバランスをさまざまな角度から見ると。 ○ふりかえりカードで自己評価をする。 ○互いに作品のよさや感想を自由に発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○夢と構想を大切にすること ○自分の夢を託した「鳥」に愛着を持ちながら、製作を進めるように支援すること。 ○巡視しながら、子ども達の実態に合わせて紙粘土のつけ方やバランスのとり方など、支援していくこと。 ○素材を生かしながら自分の表したい立体を表現できたか。 ○次時の学習内容を確認し、意欲を持つように励ますこと。

学習の主題

想像性豊かな独自の世界を表現する

題材名 「わたしの不思議な風景」
(不思議の国の?さん)



旭川市立忠和中学校

指導者 森 清 行

1 学習活動の意図と可能性

想像の世界に思いをめぐらし童心に浸って時の経つのを忘れた経験は誰にもあるものです。それはまた、冒険心にも似た心のときめきを与えてくれる。さて、子どもたちをとりまく視覚の世界は、多種多様なイメージにあふれ、そのような世界によって、生活への思いや感情が形成されていると言ってもよい。

このような子どもたちの視覚を越えた、心の中の世界を絵画的に表現させてみたいという意図から、この題材を設定した。

本題材を通して、表現への新たな発見や、イメージとの出会いを大切に、生き生きとした活動の場を演出したいと考える。

また、感情に支えられた表現活動としての美術を、より身近にとらえる契機になることを願っている。

2 指導目標

- ア、夢や、超現実的なイメージの世界の表現を通し、想像力を培い、個性豊かなものにする。
- イ、幻想的な作品のなかに、独創的なイメージの世界をつくり上げる力を養う。
- ウ、表現技法を工夫しながら、自己の表現を追求する。

3 指導の計画

- ア、ラフスケッチや文章化によってイメージをとらえ、ふくらませる。 (2時間)
- イ、イメージに関わる資料や技法、紙面の大きさ、形を決めさせる。 (1時間)
- ウ、手順や方法を考えながら計画的に制作をさせる。 (本時、2/4時間)
- エ、構想をおさえながら効果的な作品づくりを追求させる。 (2時間)
- オ、自他の作品のよいところをまとめ発表し、鑑賞させる。 (1時間)

4 本時の目標

- ア、制作の手順や方法を考え、各自のねらいに合わせた作品づくりを進める。
- イ、自己のイメージを追求しながら、意欲的に楽しく制作する。

生徒の活動の流れ	指導上の留意点(支援や評価等)
<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習内容をもとに、本時の活動内容を決める。 ○各自のねらいやイメージに合わせ、作品づくりを進める。 ○試行を行なうなかで、作品の方向性をさぐり具体的なものにして行く。 ○色や形の構成を工夫する。 ○本時の活動をまとめ、発表し、次時の課題をとらえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習内容をおさえ、本時のねらいを把握させる。 ○作品の方向性をとらえさせるよう配慮し、必要によっては、加除修正を考えさせる。 ○何をどのように表現するかによって個々のねらいや制作が、より生きるよう作品に応じてポイントをおさえ、意欲的な取り組みを援助し行く。 ○本時の内容をまとめさせ、次時の課題への見通しを持たせる。

学習の主題

それぞれが表現の主題をもち、
生き生きと自分を表現してみよう

**題材名「手作りオリジナル壁掛け
を作ろう（木象嵌画）」**



旭川市立永山南中学校
指導者 井山 和 博

1 学習の意図と可能性

旭川は家具、民芸品をはじめとする木工産業がさかんである。また周囲は山に囲まれ多くの森林資源に恵まれている。しかし、この頃家庭の中を見回してみると昔に比べて木製品の数が少なくなっているように思う。プラスチックやスチール、カーボン、樹脂などの製品は強度にすぐれ、量産しやすいという面をもっているが、木は長年の間生活の中にいきづいており天然素材特有の温かさや、やさしさで親しまれたものである。

本題材では木象嵌画の壁掛けの制作を通して木の素材のもつよさに気づかせると共に、他の素材の色合いの違いや、木目の持つ美しさにも着目させ、木を素材とした制作に興味を持たせたい。木は身近に多くあり、自然の小枝や木の

葉などは、生徒にも比較的入手がしやすい素材である。また加工も簡単に行えるので、手作りの良さと楽しさを味わわせたい。部屋に飾れる作品から、生活の中へ生かすきっかけとなることを期待する。

2 指導の目標

- ア 木の素材を生かした作品に興味を持たせる。
- イ 手作りの良さと楽しさを味わわせる。
- ウ 工芸の関心を生活の中へ生かそうとする態度を育てる。

3 指導の計画

- ① 木工作品を見ながら木の特性について考える。 (1時間)
- ② デザイン・下絵を作る。 (2時間)
- ③ 制作 (4時間)
- 本時 (3/4)
- ④ 作品を鑑賞する (1時間)

4 本時の目標

- ・つき板を選び、効果的にいかした制作を行うことができる。
- ・見通しをもち、計画的に作業を進めることができる。
- ・イメージをふくらませ、楽しく取り組むことができる

生徒の活動の流れ	指導上の思意点（支援や評価等）
* 前時までを振り返らせ、制作の手順を確認し本時の作業に見通しをもつ	* 制作の手順を確認しながら、本時の作業のポイントを知らせる
* 木の風合を考えながら制作をする	* 向きや組合せ、色合いを工夫させる * 計画的に作業を進めることができる
* 小枝や木の実と組合せイメージをふくらませる	
* 出来たところまで作品を互いに見ながら感想等を発表する	* 他の者や自分の作品の良さを発見させ、次時の制作に生かす
* 制作カードに記入	* 次時に見通しをもたせる

※※ 中学校、2学年 彫刻 ※※※※※※※※※※※※

学習の主題

一人一人が表現の主題を持ち
生き生きと個を表現する

題材名 「愉快的仲間」



旭川市立神楽中学校
指導者 畠山 勝

1. 学習活動の意図と可能性

彫刻といっても色々なものがある。本校では1学年で丸彫りを経験した。2学年ではレリーフの独特の圧縮された立体や空間の面白さを味わわせることにより表現の広がりを持たせ彫刻表現への意欲を高めていくことができると思われる。粘土によるレリーフは多様な表現ができるので指導可能な範囲で選択幅を広げることににより、主体的に個々の思いのままに追求する学習が経験できる。

指導にあたっては、サイズ、ポーズ、構図、粘土、地山の形、肉付けの表現方法（5タイプから選択、併用及び途中での変更可能）等を指導可能な範囲で選択幅を広げ、独自のテーマを試行錯誤を繰り返し追求させることによって、個々の思いを生き生きと表現していける楽しい学習活動にしたい。

2. 指導の目標

- ア. レリーフ表現の面白さを理解させ主体的に取り組む態度を養う。
- イ. アイデアスケッチを通して表現主題を明確に持つことができる力を養う。
- ウ. 個々の主題に合ったより効果的な表現を試行錯誤を繰り返し、楽しみながら工夫する力を養う。
- エ. 自他の作品の良さを認めることができる鑑賞力を養う。
- オ. 作品を大切に暮らしの中に生かす態度を育てる。

3. 指導の計画

- 1. オリエンテーション、アイデアスケッチ 主題の決定 (2時間)
- 2. 大まかな地山の制作、地山へのデッサン、表現技法等の指導 (2時間)
- 3. 制作 (5時間本時½)
- 4. 仕上げ、着色、台付け (2時間)
- 5. 鑑賞、反省 (1時間)

4. 本時の目標

主題にあった地山や粗付けを工夫し、生き生きと表現できる。

生徒の活動の流れ	指導上の思意点（支援や評価）
<ul style="list-style-type: none"> ○前時までの学習をふりかえり、本時の学習確認する。 ○自らの主題にそって制作をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・地山の形を工夫する。 ・厚みの変化の粗付けをする。（タイプ別） ○本時の学習を振り返り、次時の学習への見通しを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各自の主題、肉付けの表現方法（5タイプ）を確認し本時の制作手順等を知らせる。（OHPを使用） ○個々のつまづきや創意工夫に目を向け個別指導をする。（参考資料の提示） ○肉付けの表現方法の変更も認め試行錯誤をさせ表現の特徴を工夫させる。 ○面白い作品等を取り上げ全体で良さを認め合い学習の意欲付けを図る。 ○主題を追求して楽しみながら地山の工夫や肉付けができたか確認する。

分科会



春光台中学校 2年 新田 昌英

分科会

・分科会 1

校種	No	内容	テーマ	提言者	助言者	司会者	運営・記録者
幼稚園	1	表	よろこびを体いっぱい に表現する造形活動 ① 幼児の絵からのつぶや き②	平 広子 旭川・くりの木幼 長尾 寛子 旭川・ふたば幼	大谷 勝美 旭川・わかば幼・長	梅田 楷宗 旭川くりの木幼長	赤井 美江 旭川・めばえ幼 迦西 晃子 旭川・せつれい幼
小学	2	造	その子らしい表現を試 み、楽しむ造形あそび	紙谷 恒 旭川・高台小	渡辺 正勝 旭川・台場小・頭 北村 昶 比布・中 小・頭	玉手 稔唯 旭川・永山小 鴻江 茂 苫小牧・大成小	沢口 容子 旭川・愛宕東小
	3	絵	その子らしい思いを持 ち、広げ、表現する絵 画指導のあり方	氏家 貞 旭川・近文小	築山 尚明 旭川・雨粉小・頭 木村 典義 美深仁宇布小中長	市野恵美子 旭川・向陵小 堂下由紀子 江別・江別第二小	川村由美子 旭川・東町小
	4	つ立	その子らしい思いや願 いで、思いきり表現す る指導のあり方	菅原 敏光 旭川・旭川第三小	重山 恵 旭川・新富小・頭 波多野恭輔 名寄・名寄東小・長	石道恵智子 旭川・末広北小 内山 博之 釧路・教大附小	赤島 吉昭 旭川・旭川第二小
中学	5	絵	一人一人が表現の主題 を持ち、生き生きと個 を表現する絵画指導の あり方	川合 薫 旭川・明星中	中西 清治 旭川・東陽中・頭 小杉 正典 富良野・布部中・頭	青木 新治 旭川・緑が丘中 田丸 公記 余市・東中	鳥本 淳子 旭川・神居中
	6	デ・工	一人一人が表現の主題 を持ち、生き生きと個 を表現するデザイン、 工芸指導のあり方	小笠原信志 旭川・広陵中	五十嵐一之 旭川・緑が丘小・頭 山理 利春 富良野・山部中・長	小松 吉隆 旭川・六合中 阿地信美智 留萌・港南中	成田 慎司 旭川・光陽中
	7	彫	一人一人が表現の主題 を持ち、生き生きと個 を表現する彫刻指導の あり方	品田 潤 旭川・光陽中	宮川 昭雄 朝日・朝日中・頭 奥野 郁男 札幌・石山中・長	原 完 旭川・永山中 土谷 敬 函館・教大附中	沢田 克之 東川町・東川中
高校	8		中高の美術の連携を考 える① 新指導要領と高校美術 教育②	平田 和也 旭川・竜谷高	佐藤 範夫 旭川・旭大高	宮崎 和夫 旭川・東栄高	

・分科会 2

校種	内容	提言者	助言者	司会者	運営・記録者
幼稚園	交	講師 原 良三 旭川・旭川中・長		山中 実 旭川・ふたば幼・長	赤井 美江 旭川・めばえ幼 迦西 晃子 旭川・せつれい幼
小学	造	阿部 宏行 札幌・中央小 渡辺 貞之 深川・深川小	助言者、司会者、運営・記録者については、分科会1 に同じ		
	絵	添田 好美 雄武・豊丘小 佐伯 進 室蘭・高平小			
	つ立	大田 哲嗣 旭川・春光小 中村 吉秀 函館・旭岡小			
中学	総	坂野 潤治 旭川・教大附中	萩原 常良 美瑛・美進小・長	大口 優 旭川・六合中	吉永 一江 旭川・春光台中
		森 富輝 釧路・美原中	武田 薫 旭川・教育大旭川 助教授	関 秋宏 旭川・神楽中	
		影山 美香 帯広・帯広第六中	川上 典 上川教育局 指導主事		
校		中村 靖 富良野・金山中			
高校		山口 幸彦 旭川・南高 齊藤 健昭 旭川・東高	平田 和也 旭川・竜谷高	木村 勝男 旭川・北高	川口 幸和 旭川・西高

＜提 言＞ 幼稚園・合同公開保育

全員が楽しめる造形活動をめざして
～ 動物を作って遊ぼう ～



育真学園
くりの木幼稚園
平 広 子



旭川中央学園
ふたば幼稚園
長 尾 寛 子

1. 合同保育にあたって

普段、それぞれの幼稚園という場で、5才児の年長ともなれば、仲間との生活を通して自らプラン・デザインし、一つの遊びや活動を作り上げ生活の幅を一段と広げている。

その行動をよく見ていると、仲間の気づきや提案を一つの形にし、自分達の遊びや活動をつくり上げていくことを通して、仲間と共に一つの目的に向って、生活することの楽しさを実感しているようである。

水・土・砂に限らず、生活や遊びの中で、多くの様々な素材や材料と出会いながら、それを基にいろいろな物をつくったり、壊したりして組織的に遊び活動する方法を獲得しているのである。

この様な中で生活している両幼稚園児を交流させたい考えは、かなり以前から持っていた。今回の研究大会が契機となって、かなりの抵抗と不安を抱きつつも、次のことをおさえとしながら実践をすることになった。

造形活動という面から、幼児が目で見えて感じたことや心を動かされたことを、その子なりの表現力で、動物制作を通して発揮させるために、保育環境や保育方法をどのように工夫していったらよいかを考える。

そこで、幼児期に最も活発に働く想像の世界を大切にしながら、仲間と保育者が共有・共感し合える環境を構成して、つくり出す喜びや生き生きと表現する楽しさを味わわせることができる実践活動にするよう共通理解をする。そのため、基本のおさえとして次のようにする。

- (1) 幼児が興味を抱いているもの、また抱けるものを取り上げる。
- (2) 技能面では、その時期の発達段階に合った無理のないものを制作する。
- (3) その子なりの創造力や表現力が十分に発揮できるものとする。
これらのことがおさえられれば、楽しんで取り組む造形、つくり出す喜びを味わう造形、そして、一人一人が満足する姿が見られる造形活動になることを確認し合う。

2. 研究の経過

保育内容・展開方法が異なる幼稚園が、合同保育を実践するためには、どうしても幼稚園同志の意志疎通が重要となってくる。このため、各園の保育者が協議を重ね検討する機会を設定する。

- (1) 平成5年4月 第1回合同会議
ア. 基本のおさえについて共通理解
イ. 園児が楽しめる題材の検討
ウ. 公開保育会場の下見
- (2) 平成5年5月 第2回合同会議
ア. 題材の決定、「動物を作って遊ぼう」
イ. 材料の検討、保育環境・方法の検討
- (3) 平成5年6月 第3回合同会議
ア. 交流会の検討、(日時・内容・方法)
イ. 公開内容の再検討
- (4) 平成5年7月 合同公開保育
ア. リハーサルと反省課題の検討
イ. 材料の再確認
ウ. 公開保育の反省(今後の交流検討)

3. まとめと今後の課題

初めての交流会では、お互いに不安はかくされず、園児の行動にもぎこちなさはあったが、次第に打ち解け遊びや活動が活発になってきた。遊びながらの制作活動では、まだ不十分で、その子に合った力は発揮できなかったが、交流時の子どもの様子はつかむことができた。成果として、何回かの保育者の協議により、保育者同志の意見や技術の交換があって、保育の力の向上は一段と図ることができた。

＜提 言＞ 小学校・造形遊び

その子らしい表現を試み、
楽しむ 造形遊び



旭川市立高台小学校

紙 谷 恒

1. はじめに

“思いをあたため、心はずませ、創る喜び”を育む造形活動は、子ども一人ひとりの造形に対する傾向・意欲など、子どもの姿をありのままにとらえ、それに対応した適切な指導内容・方法を用意しなければならない。

しかし、この子どもの姿をありのままにとらえることは簡単なことではない。子どもが意欲的に造形活動に取り組む教材や内容にどのようなものがあるのか、子どもの表現はどのような広がりを持っているのか、造形に関わる活動の発達過程はどうか等、子どもの造形表現ひとつをとっても、まだ研究しなければならないことがたくさん残されている。

“創る喜び”を感じて取り組む造形活動は子どもの活動のありのままを大切にし、子ども自らが学んでいくという自主的な態度を身につけさせることが重要となる。

「造形遊び」は、子どもの自由な表現や多様な表現方法で自らが自己の世界を切り開いていく主体的な学習を保障する場であり、新しい時代の教育に重要な役割を担っている。

2. 研究の経過

「造形遊び」において問題とされることは子ども一人ひとりの表現活動を思いのままに認め表現させることは、極端には放任となることへの不安である。

「造形遊び」の指導は、指導者から子どもへの伝達行為ではなく、子どもへの表現活動の方向を提案し、情報や素材を提供し、活動を援助することである。また、子どもの表現

を一様にとらえるのではなく、多様な表現を等価にとらえる必要があり、子どもの活動を可能な限り読み取る努力が必要と考える。

3. 指導の実際

(1) 「造形遊び」の内容

ア. 低学年の内容では、土、砂、木などの自然材や人工物の形や色をもとにして、つくるものを発想したり、並べたり、積んだり、版にして写すなどの活動を、体全体を使ってダイナミックにすることが求められる。

イ. 中学生の内容では、材料を組み合わせること、仲間と一緒に行動すること、素材を選択・収集する等の活動で、発想を広げたり、試したり、思い付いたりしながら積極的に活動することが求められる。

(2) 「造形遊び」の指導

ア. 子どもの活動の読み取りは、子どもの表情や集中する様子や活動に、指導者の目配りや気配りが求められる。

イ. 展開では、子どもによって様々な活動が予想されるため、指導者は、一定の方法や順序を決めた展開を避け、幾通りかの場面を想定して進められるように計画することが求められる。

ウ. 材料は、「造形遊び」では、表現活動に大きく影響する。子どもの表現に見合った材料を用意することが大切である。

低学年では、並べる、積む、版にする材料が必要になる。

中学年では、組み合わせる、変形できる材料や、多量に集めやすい材料が必要になる。

4. まとめと今後の課題

子どもたちを、自分の思いを自由に、のびのびと、喜びを感じて造形活動をさせるためには、子どもたちの多様な表現を認め、励まし、手だてを工夫して、意欲的に取り組ませることである。子どもに学びながら、子どもの心を読み取る指導に真剣に取り組む息の長い研究と実践が必要である。

＜提 言＞ 絵で表わす

その子らしい思いをもち、
広げ、表現する絵画指導のあり方



旭川市立近文小学校

氏 家 貞

1. はじめに

現在の子どもたちは、様々な情報や色・形、大量生産の製品、流行があふれる中で生活している。このような中で子どもたちは受け身となり、思考に深まりや広がりが見られないが、子どもは本来豊かな能力を持っている。その能力をゆりおこすために自分の眼で見、心や肌で感じとるなど五感を働かせたり、多くの体験をさせることが必要である。それが個性を伸ばし、創造性豊かな表現力を育てると考える。

これからは「絵で表す」領域でも、完成作品の評価のみに終わらずその活動過程を重視する中で、創造的な造形活動の能力を伸ばし、表現の喜びを味わわせることをねらって進めていかねばならない。そのため課題の提示や援助の仕方を明確にして取り組むとき、子どもたちは自分なりの思いをもち、心はずませ、創る喜びを感じつつ活動していくと考える。

2. 研究の経過

研究の視点として、次のように考え取り組んできた。

一人一人の子どもが、自分の思いの表現として、その子どもの思いや意欲が感じられる表現なら認め励ましてきた。自分なりの表現の仕方を考え、それに自信と喜びをもって、意欲的に取り組んでいく力を育てたいと考えている。

3. 指導の実際

- (1) 自分の思いをもち、主題を見つけ、思いを広げ、心はずませて製作する子どもをめざして

題材は、子どもの実態を把握し、子どもの側にたち、思いを広げ、引き出すためにさわやかに提示し、自分の思いを膨らませ、広げながら活動できるようにしてきた。また、その表現の活動過程においても自分らしい思いを温めたり深めたりするためのゆとりを持たせてきた。そして、発想の素晴らしさ、表現の工夫など自信をもって表現できるように温かいはげましや自由な雰囲気の中で活動できるようにしてきた。

そのために日常生活の中で自然とのふれ合い人とのかかわりなどを重視し、話し合い・言葉のスケッチなど大切にしてきた。また、合科的な考えを入れ、指導計画を見直して学習を進めている。これによって思いが、より確かなものとなり、さらに興味関心を起こし、意欲的に題材に向かうと考え取り組んできた。

- (2) 自分らしい表現の方法を考え、工夫する指導の手だて

素材、用具、材料に関しては、できるだけ多くを体験させ、自分の思いや自分らしさの表現しやすい材料や用具を選択できるようにしてきた。また、表現上のつまづきを乗り越えさせるために用具の正しい扱い方や技法を体験的に取り扱い、子どもの考えを大切にしながら自信を持って取り組むように個別指導にも重点をおいて進めてきている。表現の基礎を確かなものにしていくことが、より思いを広げ、意欲的・創造的に表現活動に取り組んでいくものと考え。

4. まとめと今後の課題

子ども一人一人が、自由な発想や表現する喜びを味わい、表現意欲を高めるために、子ども一人一人の表現の思いや意図を温かく受けとめ励ますように指導してきた。その結果、自分の作品に誇りや自信をもち製作に喜びをもって取り組む姿が見られるようになってきた。

今後は、教師が子どもの思いや願いを引き出すために、子どもの側にたった援助の仕方や題材の開発が必要である。また、評価についても学習カード・チェックリスト等の効果的な活用など、評価と指導の一体化を図りながら授業を進めていくことが大切であろう。

＜提 者＞ 小学校・立体に表す

その子らしい思いや願いで、
思いきり表現する指導のあり方



旭川市立旭川第三小学校

菅原 敏 光

1. はじめに

前回の旭川大会では、旭川の自然環境を子ども達に享受させようと、地域の生活に根ざした素材を取り上げた。素材は、土、石、木、枝、雪、氷等の素朴な味わいのものであった。子ども達の忘れかけていた喜びをよびおこすべく取り組んだ研究大会であった。

旭川の自然環境も、北海道第二の都市、道北経済圏の中心地でもあるため、大都市と変わらないものがくらしにあふれている。そのものも子ども達に魅力ある素材であると考えられる。ふだんの生活のなかでは、現代化学工業が作り出した大量生産された物質がいかに多いことか……。

今回、私たちはこれらを消極的に評価することなく、積極的にその素材の特性を取り入れる研究を行ってきた。

(1) 領域のおさえ

旧指導要領では、「立体」が彫塑表現の領域として示されていた。新指導要領では彫塑的領域よりも幅を広げた表現活動として考え、必要に応じ身近な材料を取り入れてつくるように配慮されている。そこで、当部会は従来の木や石や粘土による彫塑表現を土台にしながらも、子ども個々の思いを更に広げるためいろいろな材料経験を通し、自己発見的に且つ主体的に美を追い求める子ども像を指向したい。

(2) めざす子ども像

- ① 自然や生活の中から自分の思いにあった素材を見つけ立体表現を楽しむ子
- ② 素材に親しんだり、特性を感じ取ったり立体表現に心はずませる子

- ③ 素材の特性を生かし、工夫しながら、自分らしさを発揮し、立体表現する子

2. 研究の経過

- (1) 表現の幅を広げるための素材について
ア 「造形遊び」や「つくりたいものをつくる」で扱った材料経験や生活経験を基にして、個々の思いや表現意欲を広げる授業づくりをめざした。

イ 素材のおさえ

従来の木や石や粘土等による素材ではなく、彫と塑の基本を生かせる人工的な素材を積極的に活用する。

- ① 可塑性のある素材
- ② 可塑性のある心材
- ③ ①と②を同時にみたく素材としておさえる。

(2) 新しい学力観・指導観に立つ授業

- ア 児童の発達段階に即し個々の願いや思いを援助（思い・意欲・技能）する授業
- イ 作品づくりそのものに偏る事なく、児童の造形的活動への意欲を重視する授業

3. 指導の実際

- (1) 「ふしぎなあそびば」（低学年）では、個々の思いを広げるために、遊園地の遊具を校内巡りでいろいろなものに見立て、人を土粘土で表現した。
- (2) 「動物の動きを表そう」・「楽しく歌う」（中学年）では、表現素材を広げたり焼き釜で素材の新たな可能性を経験した。
- (3) 「大空を飛ばう」・「大空に飛び立とう」（高学年）では、いろいろな素材経験や、素材そのものの美しさを生かしながら意欲的に表現しようとする姿が随所に見られ、立体表現の幅が広まった。

4. まとめと今後の課題

- (1) 身近な素材経験を広げたり、素材の特性を生かすことにより、造形的関心が深まり個々の思いがより豊かになって表現意欲につながったものと思われる。
- (2) 新学力観に立った題材の掘り起こしや素材経験を広げさせるための時間の保障や援助のあり方、学年の系統性の研究を深めて行かなければならないと考える。

＜提 言＞ 中学校・絵画

○一人一人が表現の主題を持ち、
生き生きと個を表現する絵画指
導のあり方



旭川市立明星中学校

川 合 薫

1. はじめに

私たちは絵画の表現活動を通して、対象の美しさを発見し、自分のイメージを大切にしながら、表現の喜びを得る態度を育てたいと願う。

中学生の発達段階を考えると児童期から青年前期にあって、生活経験の拡大と共に知的な発達を伴い、客観的な考え方も進み、感情も次第に高まっていく時期にある。価値観も多様になり、今まで経験しえなかった創造的な活動に興味・関心を示し、発見した対象の美しさをどのように表現していこうかと、葛藤が始まる。さまざまな欲求が交錯し、それに伴う技術・技法面での問題点もでてくる。

表現の技術的な基礎・基本も必要であるが、子ども一人一人の個性を大切にしたい行為、つまり、子どもの内面をゆり動かす対象とのあいや発想・構想・再確認といったテクニック、そして制作中の適切な配慮・助言が重要になる。

2. 研究の経過

子どもが何を描きたいのか。何に感動しどのように表現したいのかという内面を重視した教材の設定にあたり総合的な学習や選択幅のあるものを考えねばならない。これまでの想いをあたためる学習前のとりくみ、一人一人のイメージが見えてくる導入時のとりくみを重視し、学習カードや、評価の改善等に加えて、構想による表現の題材について研究を進めた。

観察による表現を重視してきたことで、技術面で遅れた子どもの内面的な感動が見失われてきている。人は何をやるにも、こうありたいという願望や仮説を立て計画し、試みたり、失敗

したりして経験を積み重ねていって実現を図ることとなる。自分のイメージを実現させようとする努力は、そのまま芸術活動の本質だと言える。

子どもが持っている個性的な素質と才能がそこなわれそうになったとき、イメージそのものを題材にしたとりくみは、子どもの秘められた個性の開発に適したものであると考える。

3. 指導の実際

絵画制作をはじめ他の領域でも、その制作過程の中に個性が表われてくるものである。造形活動の発想の中にも、色や形の表現の中にも、あるいは明暗や材質感・画面構成にもそれぞれ個性は秘められている。それらの秘められた個性を、どんな方法でとりだすことができるかが私たちに求められている。

題材を設定するときにも、子どもの欲求や興味や感動を中心にしながら、表現に必要な材料、用具を吟味して、モダンテクニックなど具体的な表現方法の工夫などを配慮してきた。

技法によっては偶然の新しい発見・感動が予想されるが、構想画は観察画と違って、発想の段階を十分煮詰めて部分的に必要なスケッチをしたり、いろいろな技法を研究したりして計画性をもつことが大切である。つまり発達段階に見合った表現の計画を立て、その作品づくりに見通しをもって作業をすすめることが、生き生きと個を表現することにつながるものと考えられる。

4. まとめと今後の課題

時数が削減された今、構想画をとり入れることが段々と難しくなっている。しかし、題材の配列を考えたり、他の分野との総合的な学習を工夫することによって十分可能である。又、子どもたちの造形活動の幅を広げ、独自性を引き出すための良い手段である。

これらの実践の交流や子どもたちの発想を豊かにする適切な資料の収集など今後の課題も多い。授業後の絵画作品が目的を持ち、より効果的に展示され、生活の中に生かされるようになれば、美術作品が身近かなものになると考えている。

＜提 言＞ 中学校・デザイン・工芸

一人一人が表現の主題を持ち、生き生きと個を表現するデザイン・工芸指導の在り方



旭川市立広陵中学校

小笠原 信 志

1. はじめに

指導要領の改訂に伴い、新しい学力観とか選択要素をどうするか等が大きなウェイトを占めるようになってきている。

デザイン・工芸領域については、特にそういう面について工夫していく余地が多い分野でもあると考える。又、生徒の側から見ても比較的興味を持って取り組むことの多い分野でもあろう。そして、我々自身も今までのやり方だけに甘んじることなく、更に改良改善を加えながら、楽しく、身近な生活場面の中にも応用発展出来るような授業の構築を工夫していかなければならないと考える。

2. 研究の経過

(1) 基本的なおさえとして

①一人一人が目的、見通しをはっきり持ち学習に臨める習慣づけを図る。

(制作カードや学習計画表の工夫、各種用具の扱いや準備の習慣づけ、事前の体験や鑑賞にかかわる環境づくり等)

②生徒の思いや発想が生かせるような学習内容(形態)を工夫する。

(表現の変化への対応⇒長さ・大きさ・使用用具等、選択要素や場面の工夫、新しい題材の開発)

(2) 指導する側としては

①ゴールは一つと考えずに臨む。

②生徒側の視点に立って一緒に考える。

③全体指導の場を出来るだけ少なく。

以上のような点に留意した授業づくりを目指し、授業研究を積み重ねてきた。

3. 指導の実際

研究授業より ― 木工芸題材を通して ―
その(1) 「板材でつくる」 1年(12時間)

①題材の目標

○その物の用途目的を考え、強く美しい形やデザインを工夫する。

○彫り跡の美しさや木肌を生かした塗装を工夫させる。

②設定理由並びに工夫(一部省略)

本学習では、市販の材料をもとに、その目的用途に合わせた形の加工や装飾をどこす題材を取り上げた。只、生徒の選択要素を加味することにポイントをおき、5種類の材料を提示した。そしてその中から取り組んでみたい物を選ぶように工夫してみた。

[栓抜き〈A〉・〈B〉・フォーク・スプーンコースター]

③学習を終えて

自分の選んだ材料であることから、自分なりの作成イメージを持って取り組めたことや5種類の作品が並行して出来ていくことからお互いがよい刺激になって、学習を進めていけたように思う。

その(2) 「オリジナル壁掛け(木象がん画)」
～予備授業から～ 2年(7時間)

特設で行った授業研究であったが、生徒はとても興味を持って取り組んでいた。この題材に取り組むケースは非常に少なく、指導者も不慣れと言うことで実際に専門の方に予め相談の上生徒にとって作業しやすい方法や、プロや自作作品などを準備して、制作意欲の喚起を図って臨んだ。そんなことから生徒にも新鮮な感動を与えた題材であった。

詳細については、授業案を参照願いたい。

4. まとめと今後の課題

今後、生徒の立場に立った表現活動がますます必要とされる。そのため、多様な表現に対応出来る指導法と的確な評価をする上での指導観をしっかりと持ってあたらなければならない。生徒にまかす部分と指導しなければならない部分の区分けもポイントとなろう。

＜提 言＞ 中学校・立体に表す

一人一人が表現の主題を持ち
生き生きと個を表現する
彫刻指導のあり方



旭川市立光陽中学校

品 田 潤

1. はじめに

これまでの指導では、技能偏重の傾向が強く生徒を作品づくりに追い込みがちであった。そのため一人一人のつくる喜びや達成感は軽視されがちで、表現意欲を十分高める指導には至らなかった。新しい学力観に立つならば、さそこで、表現主題・技法・素材・用具等の選いく手立てが必要である。そうすれば、発想・そこで表現主題・技法・素材・用具等の選択の幅を個に応じて指導可能な範囲で広げていく手立てが必要である。そうすれば発想・構想・制作の過程でも自分で考え選択し追求しようとする主体性が高まるであろう。この考え方に立ち実践をすすめているところである。

2. 研究の視点

(1) 個の把握

個の思考傾向・表現傾向・興味関心・表現力を普段の授業の中でタイプ分けし把握しておく。

(2) 学習過程における表現方法の多様化

指導可能なレベルで技法・素材をどの程度の幅に広げるかは、研究を通して見極めをもととしているところである。

(3) 個のつまづきに対応する具体的手立て

内発的動機づけ（カウンセリングマインドの手法を生かす）や適切な参考作品・資料の提示を考えている。

3. 指導の実際

(1) 題材「・・・のような手」（彫刻・1年）

(2) 学習の展開～研究の視点(1)(3)の実践例～
本時10/16（全体計画16時間）

学 習 活 動	個を生かす手立ての工夫
1 本時の学習の内容を知る。 ①学習タイプを選ぶ。 ②荒彫り、肉づけをする。	
2 自分が指導を受けたい内容を選ぶ。	個に応じる指導内容を4つ示し、それらを説明した後、各自に1つ選ばせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> 4つの内容 拡散思考型—A対象接近 B心象接近 集中思考型—C対象接近 D心象接近 </div>	
①自分が選んだ理由を自己評価シートに記入する。 ②4つのグループに分かれ制作する。	グループ毎に資料を提示し、指導の手立てを講じる。

（詳細は別資料）

4. まとめと今後の課題

成果として①新鮮な素材・技法で興味関心が高まった。②他の技法の模擬体験ができる。③自分の表現特性について考えるようになった。課題として①指導可能な範囲の見極めがないままの技法の広げすぎ。②制作時間の差の対応。③自分のイメージに合わない選択をした生徒への対応。④選択学習は時間がかかりすぎる。⑤特に彫造では基本的な指導が十分必要である等、指導の見通しが甘いと生徒は行きづまる。

＜提 言＞ 小学校・造形遊び

子どもの造形活動のよさをみとる
評価のあり方



札幌市立中央小学校

阿部 宏行

1. はじめに

子どもの側からの造形活動の見直しを掲げた授業をみる機会が増えたが、「造形遊び」はじめ、積極的に材料や対象にかかわる子どもの造形活動の評価はみる機会が少ない。指導と評価は一体のものであり、意図的な教育活動を行う学校教育において、その意図を評価する手だてはなくてはならない。「評価のための授業」であってはならないし、子どものよさを認められる評価でなければ意味はない。そこで、子どもの造形活動における行動様式をとらえ、子どもの特徴的なあらわれをみることにした。

2. 研究の経過

(1) 子どもの造形活動におけるよさをみとる

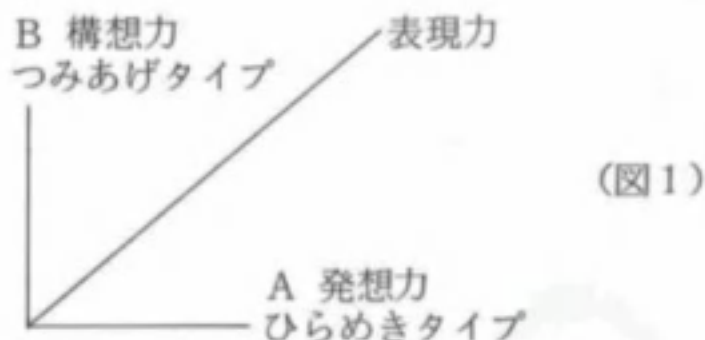
子どもが熱中してものをつくりだそうとする姿に着目すると実に様々な取り組み方がある。じっと考えこつこつとつくる子ども、とにかくやってみようとする子ども。どちらも造形活動に意欲的であり、その子のよさといえる。

(2) 造形活動における特徴的なあらわれ

このような造形活動における特徴的なあらわれを分析し、傾向を具体的にみとると、大まかに二つの意欲的な「ひらめきタイプ」「つみあげタイプ」とに分けることができる。

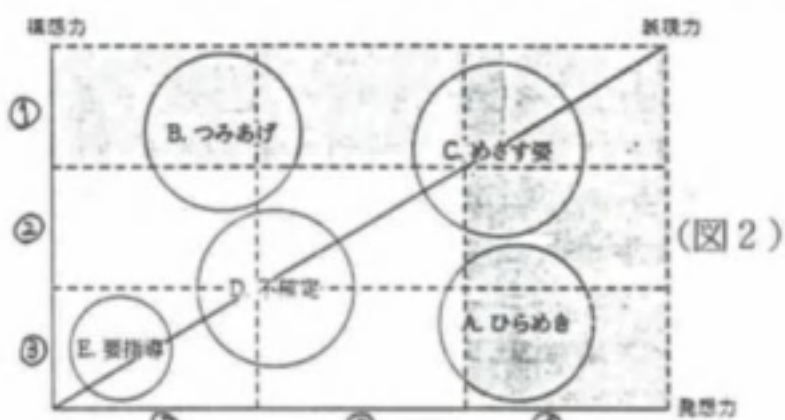
(3) 「みとりの表」による記録法

授業では〈ひらめきタイプ〉のよさと〈つみあげタイプ〉のよさに関連の深い「発想力」（アイデアを広げる力）と「構想力」（広がったアイデアをまとめる力）を両極においてみとることにした。さらに「表現力」（創造的な技能）を授業でめざす目標と関連させて斜めに軸をおいた。（図1）



授業においては、図1のような「みとりの表」を用いてみとると、子どもの具体的な姿をとらえやすくなる。この「みとりの表」は、座席表とは違って並列的な記録ではないので、具体的な評価に役立つ。

評価は、3段階程度【①よさが顕著にみとれる②はっきりしないがよさとしておさえ授業の進行に応じて経過観察する③教師の指導助言や個別・小集団での交流場面が必要である】で行い、データ化していく。そうするとおおよそAからEまでの群に分けることができる。（図2）



*あみかけは意欲の評価の対象部分

Aは〈ひらめきタイプ〉の傾向をよくあらわす群。Bは〈つみあげタイプ〉の群。Cは〈めざす姿〉その題材や授業における本質的な目標このCの反応は、Aの群とBの群の交流によって互いに高め認め合って生じる場合が多い。ここには創造的な技能の高まりも含まれる。D〈不確定〉の群はこの授業では確定できない反応を大まかにおさえ、次の時間や単元の中で見定めるため記録しておく。E〈要指導〉の群は技能的な指導や教師のかかわりが多く必要な反応とおさえ、個別指導のためのデータとしておく。これらの反応はデータとして集約していくと子どもの特性を客観的にとらえ指導のめやすにもなる。授業が発想力と構想力のどちらにも偏らないための指針にもなる。これは子どもを固定的にとらえるものではなく、常に教師の子どもを見る眼を鍛え、授業を創り出すための基にするためのデータとしてある。

＜提 言＞ 小学校・造形あそび

うさぎを 飼って

(小学2年生の実践から)



深川市立深川小学校

渡 辺 貞 之

1. はじめに

造形あそびという領域が新設されて数年、正直いって、造形あそびというものがどのような教科価値を持つのか、とまどいを持ち、試行錯誤しながら実践しているのが現状です。教科書を研究してもなかなか現場につかえるものが少なく困っているのも現状です。

本来、造形という行動は自由な遊びといていいような心情、つまりラフな精神状態の中から出てくるものですが、それは、教育というワクの中ではなかなか難しいようです。そういう意味あいから、もっと子ども達に自由な、遊び的な行動による造形活動を返してやりたいという願いを持つのは理解できます。造形あそびを分析してみると

- (1) 遊びながら素材体験をさせる。
- (2) 遊びのためにという目的をもった創造活動をさせる。
- (3) 自分達でつくったものや場所で遊びながら、その楽しさを体験させる。

このようですが、私は次のようなできごととに接し、これも造形あそびの重要なポイントになると思いました。

2. 研究の経過と指導の実際

クラスの子どもの家族から、うさぎがいるので学校で飼ってみたいかという話がありました。子ども達に話すとみんな大賛成で、さっそく飼育の準備にかかりました。子うさぎなので、初めは教室で飼うことにしました。小屋はどうする？家から箱を持ってくる。先生に、つくってもらう。木の箱はかたいから

ダンボールでつくった方がいい。……

子ども達は、いつになく活発で色々な意見が出ました。結局、ダンボールになりました。どんな大きさがいいか、テレビの箱では大きすぎる、学校の物置きに行って探してこよう。色々子うさぎにあわせてみて、最後にはサッカーボールが入っていた箱に決めました。箱にきれいな布を張りました。クレヨンで、「チョコとチビのうち」という看板もつけました。しばらくして困ったことが起きました。それは、子うさぎがどうしてか、せっかく作った箱をガリガリかじってボロボロにしてしまうのです。これじゃだめだ。先生、前に作ったみたいな牛乳の箱でつくったらどうかな。なる程、牛乳パックなら、つるつるして歯がすべるかも知れない。こうして牛乳パックのうさぎ小屋ができました。なかなか適当なクッションになって、子うさぎもいごこちがよさそうでした。おまけに、おしっこもしみこまないのになかなか清潔です。

半年位たって、うさぎも大きくなったので外で飼うことにしました。今度は大変です。北キツネや野良ねこが学校のまわりをうろついているし、台風だってくるかも知れません。初めは、私がつくろうと思ったのですが、なんとか子ども達自身でつくらせようと決心しました。どんなうちにするか、考えておいでと言うと、うちでおじいちゃんから昔のうさぎ小屋のつくり方を教えてもらってくる子、にわとり小屋の網のあまったのを持ってくる子、底はおしっこがおちるように竹でつくるといいんだってと聞いてくる子。紙面では書ききれない試行錯誤があって、2年生とは思えない立派な小屋ができあがったのです。

3. まとめ

この実践は、造形あそびと言えるかどうか、私としては結論を出せませんが、子ども達がこれ程主体的に造形行動をしたことは、まさしく造形あそびのねらいと合致しているように思えるのです。

＜提 言＞ 小学校・絵に表す

一人ひとりの思いを大切にし、
生き生きと楽しく表現する、
指導の在り方



紋別郡雄武町立豊丘小学校

添 田 好 美

1. はじめに

「おもしろくないから、うちに帰る。」—図工の時間、絵を思うように描けない一年生の女の子の言葉である。一昨年のでき事であるが、時にこの言葉を思い出し、どう援助すべきであったのか考える。

「描きたい」という意欲をもって生き生きと表現させるにはどうしたらよいか。難しい問題であるが、今考えていることを述べたい。

2. 研究の経過

生き生きと楽しく表現させるために、常々特に、三つのことを考え授業を進めている。

(1) 学級づくり

イメージを広げるための話し合いや動作化で、自分の考えをみんなの前で話したり、恥ずかしがらずに動作で表したりできるといふこと、また、そういう友達の考えや演じる姿を一生懸命聞いてあげたり、見てあげたりできるといふことは、導入を成功させるための一つの要件である。

そして、一人が感動したことやほめられたことをみんなで共有し合えば、絵を描く喜びがみんなのものになり、意欲が増すのではないか。絵を描くという根底に、認め合い、高め合う学級づくりがあると思う。

(2) 題材について

感動の強い経験や、思いが広がりそうなことを題材に選んでいる。そして、子ども達の何気ない話に耳を傾けたり、一緒に遊んだりして「すごいね」「よかったね」と共感してあげることによって、題材も見つ

けやすくなる。子ども達が思いを日記などに綴っておくと、表現の基となる感動体験を掘り起こしやすくなる。しかし、何より友達と楽しく遊んだり、額に汗して何かをやり遂げたりといった体験をさせることによって、表現したいことも自然と生まれてくるのではないか。子ども達に、笑ったり、泣いたり、怒ったり、の力いっぱい生活をつくり出すことが大切であると思う。

(3) 導入時の工夫

子ども達の発想を引き出すために、導入時に工夫することが大切である。例えば、ビデオやカセットによる視聴覚機器の利用、実物の用意、対象物の観察、話し合い、動作化…。特に、動作化を通しての話し合いは、国語や音楽など他教科でも行っており、子ども達がイメージを膨らませるための大きな助けとなっている。低学年であるので、遊びを取り入れ、楽しい雰囲気をつくって授業をスタートさせたい。

3. 指導の実際

ある題材に入る前に、その練習をする。例えば、「ぼくとひまわり」という題材では、予めひまわりだけの絵を本番より小さい画用紙によく観察して描く。絵の具やクレヨンの使い方を指導したい時も、前もって基本的な扱い方を練習する。こうすることによって、子ども達はその題材に集中して取り組めた。

また、いろいろな用具を使ったり、材料も、大きさや形、色を題材によって変えることによって、描く楽しさを味わわせている。

4. まとめと今後の課題

「ぼくはこのことを描きたかった」「私はこういう工夫をした。」—「世界に一つしかない絵」になるよう励ましを与え、でき上がった作品の中に子どもの思いを探して、よいところをほめるように努めている。子どもに、どの場面で、どんな声をかけようか、いつも悩む。「余計な口出し」ではなく、「また、描きたいな」という意欲をもたせるような援助ができればと思う。

＜提 言＞ 小学校・絵や立体に者す

豊かな発想と確かな表現力を育てる研究

～色彩感覚を育て、意欲的に
取り組む授業づくり～



室蘭市立高平小学校

佐 伯 進

1. はじめに

その子らしい思いが画面いっぱいに広がり、自分も満足し、さらに次への意欲を持続させていけるような授業づくりをと願っているもののひとりである。

個人差に応じ、個を生かす手立てを――。

基礎・基本を学年の発達に応じて身につけさせていく手立てを――。

そして、教師集団も共通理解を図りながら、実践を交流し合うように。

日常的な授業の中できちんと経験させ、積み上げがたしかめ合えるようなとりくみをしていこうではないか。

室蘭市教育研究会造形部の願いと実践と交流が続いている。

2. 研究の経過

平成2・3年を絵画に絞ってとりくみの計画を立てた。

(1) テーマについては、表題のとおり。

(2) 研究の内容について

ア 色彩感覚を育てるための色彩指導はどうあればよいか。

・身につけなければならない水彩絵の具の技法

・色の濃淡、混色、重色、ぼかし、にじみ用具等の基礎的、基本的な扱い方

イ 興味・関心を高め、意欲的に取り組ませる授業づくりはどうあればよいか。

・体験的な学習の場の設定と「気づき」を重視した授業

・発想構想段階を重視した授業

・意欲化を図る学習過程

・意欲化を促す自己評価

以上のような内容の確認に立って、児童・生徒の発達段階をふまえ、体験的な活動の場の設定と気づきを重視した授業づくりをし、実践交流し合った。

授業研究では、小学校が「じゃがいもがとれたよ」、中学校が「自分を描こう」の題材名で実践し、所定の成果をたしかめ合った。

3. 指導の実際

前述の題材での実践は、3年前のことなので、最近の実践を整理し大会当日に向けて具体的に提示していきたい。

言えることは、春・秋の作品展（立体も含めて）で市内の小中学校が全校の各学年の代表作を一堂に集結させる。それを各校の造形部の先生方で審査作業を行う。特選・佳作を選定していく中で、表記のテーマにかかわる語り合いが成果をあげている。

絵画は勿論のこと、彫塑・版画・デザイン・工芸等の作品もあって、市内のレベルの確かめをし合うのは当然のことだが、子どもたちも父母も、一般市民を含めての作品鑑賞ができる訳である。

4. まとめと今後の課題

2・3年度の絵画から、4・5年度は工芸にしぼり（小学校は木を素材にした立体造形）これをさらに他領域へと発展させていく方向で検証をしていきたいと考えている。

いずれにしても、個人差に応じた指導の手だて作りをしたり、基礎・基本の定着化を図る学年系統表の独自作成等、課題を絞り込んでのとりくみを具体化していくような共通理解の場を多く持ちたい。

＜提 言＞ 小学校・つくりたいもの
をつくる

その子らしい思いや願いで、思い
きり表現する指導のあり方



旭川市立春光小学校

太 田 哲 嗣

1. はじめに

本来、子どもたちは、適当な材料があると、何かものをつくるということを好んで行うものである。

そこで、「つくりたいものをつくる」では、子どもたちが材料にふれたり、用具を使ったりしながら、自分自身の思いを自分自身の手を使ってつくることの喜びを味わわせ、ものをつくるという活動を通して感性や創造性を育てていきたい。

製作活動を行う上では、子どもたちのつくりたいものに必要な材料を考えて集めたり、道具を準備したりする活動など、子どもたちのつくり出していこうとする意欲を大切に扱うようにしていきたい。

また、子どもたちの小さな発見や発想を大切に扱い、見通しを持って計画したり、構想したりする力をつけさせるようにしていきたい。

色のつけ方や用具の扱い方など技能面については、自分らしい表現ができるように、活動していく中で、楽しみながら身につけさせていくようにしていきたい。

2. 研究の経過

めざす子ども像を「自分の思いを、自分らしく、楽しみながら表現できる子」と設定し、実践してきた。

子供たちの意欲を高めていく方策の一つとして、出来上がった作品の使い方、飾り方、そして、その扱い方を具体的に知らせ、意識させるようにした。このことにより、用具や材料集めの段階から、子どもたち自身、製作に対する思いが込められていくと考えた。

3. 指導の実際

12月に行った教材でもあり、2学期の「お楽しみ会」の飾りにしようとする取り組みのものである。

＜学習の流れ＞「大好きなものの発表会」

(1) イメージ化をはかる

ア. 発想したことを広げていくため、「連想ゲーム」などを行う。

① 自分の大好きなものからの発想

(自動車⇒乗り物⇒飛行機⇒船⇒ロケット)
(うさぎ⇒動物⇒ライオン⇒ぞう⇒きりん)
(ラーメン⇒食べ物⇒ケーキ⇒いちご)

② 紙の色からの発想

(グリーン紙⇒ツリ⇒プレゼント
⇒サンタさん⇒トナカイ)
(オレンジ紙⇒みかん⇒ぶどう⇒いちご)

③ 材料の形からの発想

(プリンカップ⇒UFO⇒花⇒ベル)

(2) 飾りをつくる・ひもに飾る

ア. 教師は紙類など材料の整理保管と用具の使い方の指導を中心に行った。

イ. 四つの飾りを作り終えるまで、子どもたちの意欲が途切れないように飾りが出来上がるたびに教室に飾り付けた。

4. まとめと今後の課題

イメージ化のときに、四つの飾りを関連づけるような印象が強かったのか、子どもたちの中に形にこだわりを持つ子も多かったように思われた。

しかし、材料の中から発想したプリンカップによるUFO・ベルなどは立体的な作品として子どもたちの間では好評であった。

また、用具についても、発泡スチロールのトレイを型ぬきするためビンのふた、クッキーの型ぬきなどを準備するなど工夫も見られた。

「お楽しみ会」の飾り付けということもあって、子どもたちも材料集めにも製作活動にも意欲的に取り組んでいた。

＜提 言＞ 小学校・つくりたいもの
をつくる・立体に表す

感性を大切にし、表現する喜びを
味わわせる造形活動のあり方



函館市立旭岡小学校

中 村 吉 秀

1. はじめに

一つの方法に触れ、湧きだすインスピレーションは、一人一人独自のものである。そして子供達は、それを源に想像力を働かせ、並べたり、切ったり、組み立てるなどを自然のうちに楽しむ。これを、その子なりの感性として大切にし、授業の中で中心に据える。

表現活動に至るまでを「構想の段階」とするならば、この直観的な感性は、題材から自由に伸び伸びと考え、様々な想いを巡らす重要な起点となる。しかし、このままでは、具体化のための思考の深さが得られない。気楽に出された多くの発想を基に、制作への構想へとまとめることが必要である。そのことが、子供達の「想い」をふくらませ、楽しく意欲的な活動につながるものと考えた。

また、ただ各自の「想い」を表出するだけでは、造形活動になりえない。今までの自分の体験を基盤に判断し、造形的な試みを繰り返し、創造的な技術を身に付けながら、すべての感覚を一緒に働かせる活動でなくてはならない。この積み重ねが子供達の造形意欲を高め、心地よい・楽しい授業になると考えた。

2. 研究の経過

＜研究の視点＞

(1) 子供の感性に訴えるために

普段何気無く触れているアルミ缶をはさみで切り、内側のきれいな銀色バックと目に入ったときの子供達の驚きは、意外に大きい。それは、硬いものであるとイメージしていたものがスムーズに切れる感触や切

り開き他の形へ変化できるという材料観を与えるからである。このように素材との出会い方の工夫が学習への興味・関心を高め、一人一人の感性に触れるきっかけになる。

また、宇宙動物という題材が、既存の動物に捕われない自由さを促がし、感性を働かせた楽しく想像的な活動を広げるものになると考えた。

(2) 構想を練り造形思考をまとめるために

材料・題材から、いろいろ巡らした「想い」を学習カードにそって各自で練り上げ、制作につなげていく。最初の発想内容を重視するが、制作途中における「よりよいもの」への変更は認めることにする。

(3) 意欲を高めるために

宇宙動物の名前を考えたり、子供美術館への展示や助言・自己評価などの手だてにより、個々を生かし意欲の向上を目指した。

3. 指導の実際

(1) 題材名・・・「ここは、宇宙動物園」 ～アルミ缶を变身させよう～（5年生）

- (2) 学習過程・・・・・・・・・・・・・・ 8時間
- ・材料に触れながら構想を練る—— 1時間
 - ・自分の想いを基に、制作する—— 6時間
 - ・鑑賞する（作文・展示）—— 1時間

(3) 留意点

缶収集のための時間、安全性と技術面（接着に関して）の諸助言に配慮した。

4. まとめと今後の課題

喜々と制作に取り組む子供達を目のあたりにしたとき、「想い」を認め、楽しく活動させることこそ重要だと感じた。しかし、「造形活動を活発にする」には、子供の側に期待する部分もある。それには、今までの生活史と感性がうまく働き、主体的な活動が連続する中で「子供の高まり」を期待しなければならない。また、教師が表現活動を温かく見守り、援助活動に徹する心構えが基本となる。図画工作科における「子供の造形活動」の根本的な考えを深め、感性に響く材料・題材の創造が、これからの研究の重点と考えている。

選択教科としての美術における選択幅の適性化について



北海道教育大学教育学部
附属旭川中学校

坂 野 潤 治

1. はじめに〔適正な選択幅の拡大とは〕

学習指導要領は選択教科の美術の内容について、生徒の多様な個性を生かすために、幅広く選択できるよう、その内容を配慮する必要性を述べている。この「幅広く」をどうおさえるかが選択教科設定の際の鍵となる。

一般に「幅広く」というと、領域を広げ盛り沢山な内容を用意することと捉えがちだが、選択肢を広げることで本当に指導の効果を上げられるものかどうか十分な検討が必要である。なぜならば、幅を広げるということは、それだけ教師の対応が難しくなり、学習内容を深められない事もあるからである。

そこで、本校では生徒の個性伸長を図るために本当に必要なものは何かを十分に吟味し教師の目の届く範囲での選択幅の拡大を探っている。教師の目が届くという意味は、課題を限定する場合は方法を多様化し、課題を広げる場合は方法を限定するという2つの視点から選択幅の適正化を図ることである。また資料提示やアドバイスなど一人一人の生徒を大切にすることを十分に整えることである。

2. 研究の経過

(1) なぜ視覚伝達デザインにしたか

中学校の選択教科の内容を考える際には、上記の視点の他に、高校の芸術科（美術、工芸）との関連や表現活動の前提となる柔軟な発想・構想力を育てるという視点からも十分に検討する必要がある。

視覚伝達デザインは、目的や条件をよく考え、それを実用に生かすための構想力が特に重要である。さらに様々な素材操作や技法の体験等と密接に関連している。従って、課題

や方法の指導可能な範囲を見極めた上で多様化し、視覚伝達デザインの特性を生かすことを考えれば、選択教科の特質を生かした指導が十分にできると考えるのである。

(2) 生徒の多様な個性を生かす実践例

① 2年課題～「アニメーション」と「イラストレーション」の2部構成

— 課題を絞り、方法を広げる —

- ・第1部の課題～「アニメーション」
- ・技法選択～フェナキストスコープ、ゾートロープ、バラバラ、パタパタ、クルンクルンアニメ（1～2選択）

※別冊（指導マニュアル、指導案、KJプロセスシート、マンガラ、作品、自己評価）

- ・第2部の課題～「イラストレーション」
- ・主題選択～ユーモア、ウイット、トリック、エコロジー、ファンタジー、ポップス

※別冊（指導マニュアル、指導案、主題別資料、学習の手引き、作品例、自己評価）

② 3年題材～「視覚伝達デザイン」

— 課題を広げて、方法で絞る —

- ・課題～カレンダー、標識、絵文字、CDケース、ポスター、ロゴタイプ（選択）
- ・技法～モダンテクニックの併用

※別冊（指導マニュアル、作品、自己評価）

3. まとめと今後の課題

選択教科では、生徒の多様な選択動機にどう応えるかが大切である。「選択して良かった」という満足感や成就感を獲得できる教師の指導の見極めと具体的な手立てが不可欠となる。

また、課題や方法を教師が絞ることは、生徒の自由な活動を制限するように思われがちだが、生徒の実態、題材や教材の特性から教科として個の何を生かすのかを焦点化せねばならぬというのが本校の考え方である。

本研究の今後の課題は、①選択動機の把握の仕方、②素材操作をもとにした発想力、構想力を高める学習プロセスと素材の開発、③適正選択できない生徒への指導援助の在り方等である。今後、これらについて検証授業を通して明らかにしていきたい。

同じ物を同じ時間で製作しない指導



釧路市立美原中学校

森 富 輝

1. はじめに

数年前、ふと疑問に思ったことがあった。「一定の時間に同じ題材で学習を進めることは、表現活動に制約を与えるのではないだろうか」

個性の伸長をと言われながらも、従前通りの指導観ではそのことに対応できないと考える。それは、一斉指導形態の学習では生徒自らの思いを表現しきれない題材とならないこともあることと、学年進行によって創造活動の能力の格差が増えることが考えられるからである。そこで、以上の課題を解決する糸口を探ろうとしたものである。

2. 研究の経過

生徒の創造的な学習活動を引き出すためには、一定の枠にとらわれることなく自由に発想し、創意工夫をもって主体的に取り組める条件を整える必要がある。また、発想を豊かにするものとして、多様な美的体験や教師からの励ましと具体的指導が必要である。

創造的な学習活動を進めるためには、探究心や発見する喜びに気づかせ、自らの構想を練りあげる過程で、友人と相互に情報を交換しさらに構想を深めるのであるが、そこから生み出されたものを表現するためには基礎的な技能の学習を欠くことは出来ない。

今までは、課題選択学習を取り入れ、同一の題材への生徒一人一人の多様な取り組みという視点で研究を進めてきた。そこでこれからは、課題設定を生徒一人一人に委ねる指導に視点を移した。それは、複数の題材をあら

かじめ設定し、一定の制作時間内であれば生徒一人一人の作業ペースによってどの題材に取り組んでも良いとする条件を与え、同じ物を同じ時間で作らなければならないとする精神的負担を無くし、より豊かな発想を引き出し、主体的学習態度を育てようとしたのである。

3. 指導の実際

3年生に木彫文箱と想像画の二つの題材を14時間で製作すると設定した。

「木彫文箱」は、中学校3か年で履修した経験や技法の総括的な学習を意図し、日常生活で身近に使う工芸品にテーマを設定した題材である。木彫に関する学習は、1年生では「木彫時計」、2年生では「ペンケース」を履修し、制作上の技法は塗装も含めて経験済みである。蓋の合せ目の箇所の様子が、自然に繋がるように作ることが生徒にとって難点であると考えられる。

「想像画」製作の視点は、美術作品には、対象が持つ内面性と作者の心情が表現されているものであり、特に現代の美術作品にあっては、それがより鮮明に表わされてきているので、生徒の内面を自由に表現出来る手立てを考えなければならない。また、最近の映像文化に見られる、製作者の自由なイメージーションから作り出された非日常的情景は、内面を表現することの具体例である。形態や色などを自由に扱って心の中を表現することを意図としたものである。

4. まとめと今後の課題

生徒は製作の計画を立てながら必要な資料を用意し、ある程度自主的学習態度を育てる良い刺激となったと考えられる。その結果、美術の時間を無為に過ごすことが無く、有効に時間が使われたのである。

今後の課題として、①基礎・基本の履修。②各種の資料を揃える。③道具を十分に用意する。④製作のための広い空間。⑤1年間の題材をも生徒一人一人が設定する。などがあげられる。

＜提 言＞ 中学校・総合

作品発表・交流の場を通じて
見る目・感じとる心を育てる
指導のあり方について



帯広市立帯広第六中学校

影 山 美 香

1. はじめに

なぜ人は「形にして表す」のだろうか。

絵でも良い、彫刻でも良い。文章でも良い。「表現」の欲求がわきおこる根底にあるものの一つに「自分を理解してほしい」という思いがあるからだとは私は考える。また造られた作品にふれるということは「その作品を造った人を理解する」ということにつながる。

美術科における作品づくりは単に学校での成績をつけるためだけでなく、本来の目的である「造ったものを見てもらう、また見る」というものをつなげていくべきである。そのような考えのもと、校内外における作品発表交流の場に参加した。

中学生という成長の段階にある生徒たちがこの場を通じて洞察力を養い、互いに理解しあうことを目的とし、取り組んだ。

2. 研究の経過

作品発表・交流の場に参加するにあたって重視した点は次の通りである。

ア. 校内外の生活の中に生きる美術科の指導のあり方

イ. 自己開発をめざした作品づくり

ウ. 相互理解をはかる作品鑑賞のあり方

以上のことをふまえ、次にあげる4分野において、授業中の作品、また夏・冬休みの課題として作品を発表した。

(1) 校内での取り組み

ア. 校内写生会

イ. 生徒会誌「結晶」表紙図案

ウ. 文化祭での展示発表

エ. 校内美化を目的とした作品展示

(2) 校外展

(3) 帯広市小中合同造形展

(4) 各種コンクールへの参加

上記の中でも校内での取り組みに関しては生徒会の活動と結びつけるなど、授業時間内だけでなく、「生活の中に生きる」美術ということも考慮した。

3. 指導の実際

一つの「作品」なるものをつくるのは大変なことである。パウル・クレーが「芸術とは目に見えるものを再現するのではなく、目に見えるように表すのである」という言葉を残したが、まさにその通りなのである。

指導の際にも、今現在行っている練習なり習作が、最終的には自分の表現したい思いを具現化するために行っているのだということを理解させた上で作品づくりへのぞんだ。

前述の発表の場に関して、実践した題材は次の通りである。

ア. 風景画 全学年

イ. 群像を描く 二年生

ウ. 生徒会誌表紙デザイン 三年生

エ. ポスター 全学年

オ. イラストボード 三年生

カ. 生活を描く 三年生

以上の題材は、この他の題材とも関連づけ指導していった。

4. 今後の課題

「発表の場」が最終目的ではない。あくまでも「見る目、感じとる心」を養うきっかけの一つになれば良いと考え、設定した。

良いもの、美しいものを素直に感じとることのできる心を育て、美術科の学習を通じて学んだことを「心豊かな生活」のために生かすことができるよう取り組んでいきたい。

＜提 言＞ 中学校・デザイン

一人ひとりのおもいを広げるデザイン学習の工夫

～CGを生かした系統的なデザイン学習～



南富良野町立金山中学校

中 村 靖

1. はじめに

美術教育における「表現」とはという間に新たにコンピューターが加わってきた。特にCGの発展はめざましく、TV・CMや映画や社会生活に大いに生かされている。

5年前までは、専門知識が必要だった操作が小学生でも容易に取り扱えるようになった。鉛筆や水彩絵の具と同じ次元でだれでも表現できる手段（道具）になってきた。今まで紙と鉛筆が平面表現の主流であったが、電子光を用いた表現作品が今後、学校から生み出されるだろう。

私たちには、こうした変化に対応することや、基礎・基本をおさえた授業の改善を進めることが求められている。多くの情報を短時間に的確に伝え、判断し、取捨選択する能力がますます必要とされる未来社会を生きる子どもに、美術科として何を指導して行けばよいのか。

今後、「個々の学ぶ喜びや表現する楽しさを十分味わわせ、授業を子どもの側に立って創り、指導し評価していく姿勢」が必要である。未来に生きる生徒像を考える時、単に「～を知っている」「～がわかる」段階から、自分の発想を大切にしながら「～ができる」という実践力を身につけ、生活における柔軟な思考力と創造力に富んだ、心豊かな子どもを育てたいと本主題を設定した。

2. 研究の経過

「生徒一人一人に応じた適切な表現技法と鑑賞能力を高める工夫をすれば豊かな人間形成が図られるであろう」という本校の美術科指導目標の下、デザインの基礎技術、基本技

法を示した後、教育課程にCGを用いた授業を系統的に組み込む実践を試みた。本校では、2人に1台の割合でコンピューターを操作できる環境を整えた。「一人ひとりのおもいを広げ、さまざまな願いを実現させる」できる限りの方策を施してきた。

3. 具体的な実践内容

(1) 発想を大切にし、見通しをもって表現させる工夫

題材配列の系統整理

- 縦の系列（フロッピーに保存）
 - 1年「自然物からの構成」「透視図法」
 - 2年「抽象形からの構成」「アニメ」
 - 3年「立体感のある構成」「3DCG」
- 題材に有機的関連とフィードバックできる映像を豊富に用意し、自分の過去の作品を振り返ったり、先輩の作品をロード（読み込み）できるようにする。
- 横の系列
 - 一人ひとりに描画ソフトとフロッピーを準備し3年間の描画記録を磁気的に残す。個人内鑑賞や比較鑑賞は、教師がハードディスク内にインストールしたものでホストコンピューターから援助、演示する。もちろん発達段階や一人ひとりの段階において、実技指導を適当な時期に行う。

(2) 鑑賞を通して自分の考えを深めさせる工夫

アイディアスケッチしたものを各自フロッピーに保存する時に、コメントと日付けを毎時間入れさせる。完成時に一人ひとりがパソコンを操作し、制作過程をスライド式に映示し発表する。ディスプレイ画面を見ながら、平面作品に配色決定したものを確認して着彩する題材によっては、映示した作品自体が作品となることもある。

4. まとめと今後の課題

中学校の美術の時間は少なすぎる。特に2～3年生の1コマ1時間の授業で何をすべきか。この状況下で、パソコンは有効な道具と考え、デザイン分野で効果的な活用をしていくのも一方法である。

北海道造形教育連盟規約

1. 名称と目的

本連盟は、北海道造形教育連盟といい、本道造形教育の振興をはかるをもって目的とする。

2. 事業

本連盟は、目的を達成するためにつきの事業を行う。

1. 研究会・講演会・展示会等の開催及び後援
2. 造形教育に関する教科書・教材・教育等の研究
3. 機関誌「北海道造形教育」の刊行
4. 他の造形教育団体との連絡提携
5. その他造形教育振興上必要な事項

3. 会員

正会員 本道幼・小・中・高・その他これに準ずる学校の教職員
賛助会員 本連盟の目的に賛同するもの

4. 組織

本部 本連盟の本部は札幌におく。
サークル 本道各地にサークルを置き、会員は原則としてこれに所属する。

5. 構成及び任務

1. 役員

委員長 1名 本連盟を代表する。
副委員長 若干名 委員長を補佐する。
会計監査 2名 会計の監査をする。

2. 委員

地区委員 地区1名 地区サークルを代表する。
常任委員 若干名 本連盟の運営に当る。
顧問 連盟の重要な問題につき意見を述べる。

6. 選任

- 委員長、副委員長、会計監査は総会で選出する。
- 地区委員は地区サークルで選出する。
- 常任委員は委員長の委嘱による。
- 顧問は総会において委嘱する。

7. 任期

役員および委員の任期は1カ年とする。但し再任を妨げない。

8. 会議

- 総会 必要に応じ開催し、連盟事業につき協議する。
- 委員総会 役員・委員をもって構成し毎年開催する。
役員の選出・予算・決算及び年度計画等につき審議する。
- 常任委員会 役員及び常任委員をもって構成し、連盟の事業を執行する。

9. 会計

本連盟の会計は、会費・事業収入及び寄附金により執行する。
会費 正会員は、1人年額1,000円を納入するものとする。
サークルは、年額4,000円を本部に納入するものとする。

10. 事務局

- 事務局は事務局長在勤の学校におく。
- 事務局長は常任委員中より委員長が委嘱する。
- 事務局は必要に応じて各部を設け業務の分担をする。

11. 年度

本連盟の事業並びに会計年度は5月に始まり翌年4月に終わる。

規約の改廃

本規約の改廃は総会の決議による（昭和62年5月3日改訂）

平成5年度 北海道造形教育連盟名簿

1993. 5

役員

役名	氏名	勤務校	所在地	電話
委員長	鹿嶋 健	札幌市立栄町小長	065 札幌市東区北36条東13丁目	011 (752) 4130
副委員長	川島 信也	旭川市立東光小長	078 旭川市東光18条6丁目	0166 (32) 9958
"	稲船 正男	標茶町中茶安別小中長	088-23 川上郡中茶安別基線35	01548 (8) 6133
"	和田 弘	恵庭市立恵庭中長	061-14 恵庭市文京町79	0123 (32) 3249
"	金谷 彌	函館市立旭岡小長	042 函館市西旭岡1丁目33-1	0138 (50) 2867
"	船着 昭弘	札幌市立伏見小長	064 札幌市中央区南18条西15丁目	011 (551) 2771
監査	山宮 喬也	北見市立緑小長	090 北見市緑町2丁目1-1	0157 (36) 2688
"	寺本 吉明	芽室町立芽室小長	082 河西郡芽室町東4条南2丁目1	0155 (62) 2106

本部事務局

役名	氏名	勤務校	電話	役名	氏名	勤務校	電話
事務局長	白井 罔毅	真駒内南小長	(581) 0221	研究部長	菅原 清貴	三角山小	(643) 1133
事務局次長	富田 泰	伏見小	(551) 2771	次長	阿部 宏行	中央小	(261) 6568
"	多田 紘一	柏中	(521) 2341	"	篠原 寛	宮の森小	(631) 6356
"	香西富士夫	札幌平岸高	(812) 2010	"	桜田 豊	幌西小	(561) 2201
会計部長	吉田 倭雄	福井野小長	(664) 5551	"	岡澤 邦彦	屯田中央中	(771) 5981
次長	植木 則子	桑園小	(611) 4211	"	塚野 昭臣	附属中	(778) 8527
庶務部長	佐藤 靖	三角山小	(643) 1133	"	角力山 旭	陵北中	(621) 1225
次長	池田 悦子	山の手南小	(621) 6771	"	小林 智彦	札幌南高	(521) 2311
"	高杉 正和	啓明中	(561) 4168	事業部長	藤井 正治	厚別東小	(898) 4650
広報部長	毛馬内國夫	桑園小	(611) 4211	次長	小柳 雄嗣	琴似中央小	(631) 6306
次長	中居 正光	東札幌小	(821) 6333	"	稲寛 順	八軒西小	(643) 4352
"	大場 章子	美しが丘小	(884) 9860	"	白井 真澄	稲穂小	(694) 4781
"	今 裕子	真駒内緑小	(582) 2131	"	田口 和男	月寒東小	(851) 7924
"	伊藤 尚	上野幌中	(895) 0531	"	阿部 時彦	南が丘中	(571) 3775
				"	開沼 英則	札幌東陵高	(791) 5055

事務局

〒005 札幌市南区真駒内泉町3丁目

札幌市立真駒内南小学校 白井 罔毅

TEL (011) 581-0221

全道造形教育研究大会の開催地と研究主題一覧

- 第1回（札幌）1950
情操教育の一環として本道図工教育の進展を図るため。
- 第2回（札幌）1952
美術教育の新思潮である創造主義美術教育の諸問題について。
- 第3回（旭川）1953
美術教育の指導とは何か。
- 第4回（函館）1954
図画工作教育実践上の諸問題について。
- 第5回（釧路）1955
図画工作教育における学習指導上の問題点の解明。
- 第6回（札幌）1956
造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか。
- 第7回（室蘭）1957
のぞましい造形教育における具体的諸問題について。
- 第8回（小樽）1958
図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか。
- 第9回（帯広）1959
新段階における造形教育のあり方。
- 第10回（網走）1960
本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見よう。
- 第11回（滝川）1961
子どもたちの芸術性を育てるために私たちは何を与え何をすべきか。
- 第12回（名寄）1962
子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか。
- 第13回（余市）1963
子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか。
- 第14回（札幌）1964
子どもの造形能力とは何か。
- 第15回（稚内）1965
子どもの造形能力とは何か。
- 第16回（室蘭）1966
子どもの造形能力とは何か。
- 第17回（函館）1967
指導の構築を具体化する。
- 第18回（苫小牧）1968
指導の構築を具体化する。
- 第19回（札幌）1969
造形能力は、どのような指導によって育てられるか。
- 第20回（旭川）1970
ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか。
- 第21回（札幌）1971
造形能力は、どのような指導によって育てられるか。

- 第22回（帯広） 1972
未来に生きる子どもの造形教育（生活に根ざした造形教育をどう高めるか）。
- 第23回（室蘭） 1973
未来に生きる子どもの造形教育（たしかな表現力をどのように育てるか）。
- 第24回（美幌） 1974
未来に生きる子どもの造形教育（ひとりひとりの子どもの表現力をどう高めるか）。
- 第25回（江別） 1975
未来に生きる子どもの造形教育（自ら創り出す力をどう育てるか）。
- 第26回（岩見沢） 1976
未来に生きる子どもの造形教育（すべての子どもの造形のよろこびを）。
- 第27回（札幌） 1977
（第30回全国造形教育研究大会とかねる。）みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践。
- 第28回（函館） 1978
みずみずしい中味でしなやかな子どもを育てる造形実践（すべての子どもが生き生きととりくむ学習）
- 第29回（旭川） 1979
生き生きとしたゆとりのある子どもを育てる図工美術教育のあり方。
- 第30回（苫小牧） 1980
ひろがりやと深まりの造形教育を求めて。
- 第31回（釧路） 1981
創り出す心をよびおこす造形教育
- 第32回（室蘭） 1982
見る、知る、感ずるそして、創りあげる喜びを。
- 第33回（留萌） 1983
生活とふれ合い、創る心のひろがりを求める造形活動。
- 第34回（札幌） 1984
知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動（わきたつ発想・たしかな表現・つくり出す喜び）
- 第35回（函館） 1985
知恵とエネルギーをわきたたせる造形活動（心をこめてつくり出す子どもを育てる。）
- 第36回（旭川） 1986
（第39回全国造形教育研究大会とかねる。）子どもの心をゆり動かす造形教育（つくる心のひろがり求めて。）
- 第37回（紋別） 1987
子どもの心をゆり動かす造形教育（表現の喜びにひたる子どもを育てる。）
- 第38回（滝川） 1988
子どもの心をゆり動かす造形教育（ひたむきに創る心を育てる。）
- 第39回（帯広） 1989
子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実（君はいま創造のとりこに）
- 第40回（苫小牧） 1990
広がり、深まり、そして感動を！
- 第41回（札幌） 1991
子どもの個性的表現を授ける造形教育（子どものつくる喜びをひろく）
- 第42回（函館） 1992
子どもの個性的表現を授ける造形教育の充実（感動、そして創造する喜びを）
- 第43回（旭川） 1993
思いをあたため心はずませ創る喜びを。

第43回 全道造形教育研究大会（旭川大会）役員

大会長	鹿嶋健	（北海道造形教育連盟委員長）
副大会長	川島信也	（北海道造形教育連盟副委員長）
	稲船正男	（ ” ）
	和田弘	（ ” ）
	金谷彊	（ ” ）
	船着昭弘	（ ” ）
顧問	佐藤仁志	（北海道教育庁上川教育局長）
	佐藤武	（ ” 次長）
	安友進市	（ ” 指導主幹）
	小山一彦	（ ” 企画管理課長）
	小笠原保典	（ ” 生涯学習課長）
	山本均	（ ” 義務教育指導班主査）
	平井敏夫	（旭川市教育委員会委員長）
	後藤典亨	（旭川市教育委員会教育長）
	藪隆	（ ” 教育次長）
	北邑芳雄	（ ” 学校教育部長）
	石崎明	（ ” 学校教育部次長）
	安井武士	（ ” 学校教育部学務課長）
	高橋洋	（北海道立旭川美術館長）
	平塚敏明	（旭川市小学校長会長）
	西田勉	（旭川市中学校長会長）
	小城定昭	（上川管内教育研究会長）
	後藤久雄	（旭川市教育研究会長）
	梅田雪嶺	（北海道私立幼稚園協会旭川支部長）
	柳原寿夫	（第39回全国造形教育研究大会運営委員長）
	松浦正美	（ ” 運営副委員長）
	上条雄也	（北海道造形教育連盟顧問）
	泉秀雄	（ ” ）

運営委員長	川島信也	(東光小校長)
運営副委員長	野村信男	(東五条小校長)
	古屋栄隆	(上雨紛小校長)
	千葉豊治	(近文第四小校長)
	小杉信雄	(千代ヶ岡小校長)
	原良三	(旭川中校長)
運営委員	中辻透	(東五条小教頭)
	渡辺正勝	(台場小教頭)
	五十嵐一之	(緑が丘小教頭)
	小杉正典	(共栄小教頭)
	重山恵	(新富小教頭)
	築山尚明	(雨紛小教頭)
	中西清治	(東陽中教頭)
	飯塚礼二	(東五条小)
	佐藤範夫	(旭川大学高等学校)
	平田和也	(旭川竜谷高等学校)
	梅田楷宗	(くりの木幼稚園長)
	山中実	(ふたば幼稚園長)
	大谷勝美	(わかば幼稚園長)
大会実行委員長	大久保正義	(旭川第五小校長)
大会実行副委員長	関秋宏	(神楽中)
	大口優	(六合中)
	氏家貞	(近文小)

●事務局

- ◎鳥本 捷夫 (神居東中)
- 高野 亮 (江丹別小) 伊藤 順治 (知新小) 長田 和代 (東光小)
- 大槻 茂 (北都中) 菅原 祐子 (東光小) 大西 勤 (東陽中)
- 加藤 隆 (愛宕中) 内澤ひとみ (北光小)
- 金子 英雄 (北星中) 福井 洋子 (神居小)

●研究部

◎伊藤有為男（末広北小）

○小倉 孝（啓明小）

○小笠原信志（広陵中）

○川合 薫（明星中）

市野恵美子（向陵小）

菅原 敏光（旭川第三小）

工藤 斉（神楽小）

青木 新治（緑が丘中）

井山 和博（永山南中）

坂野 潤治（附属旭川中）

氏家 貞（近文小）

山口 幸彦（南 高）

川口 幸和（西 高）

長尾 寛子（ふたば幼）

佐藤 理加（くりの木幼）

中川 恵（くりの木幼）

加藤 由夏（くりの木幼）

浅野由美子（ふたば幼）

紙谷 恒（高台小）

伊藤 久栄（永山東小）

武田千絵美（神居小）

弘田 洋子（愛宕小）

垣内 寛子（永山西小）

佐藤 修司（緑新小）

森 清行（忠和中）

原 完（永山中）

品田 潤（光陽中）

関 秋宏（神楽中）

斉藤 健昭（東 高）

本田 赫子（藤 高）

赤井 美江（めばえ幼）

武田 美奈（くりの木幼）

住田 真子（くりの木幼）

一戸 浩美（ふたば幼）

池田 雅美（ふたば幼）

宮本 佳世（東五条小）

坂本 幸（東五条小）

横川香代子（永山小）

石道恵智子（末広北小）

太田 哲嗣（春光小）

本田 幸市（永山南中）

小松 吉隆（六合中）

畠山 勝（神楽中）

大口 優（六合中）

宮崎 和夫（東栄高）

木村 勝男（北 高）

平 広子（くりの木幼）

迦西 晃子（せつれい幼）

畠山 寿恵（くりの木幼）

野村真由美（くりの木幼）

佐々木幹子（ふたば幼）

●事業部

◎石垣 廣（共栄小）

○中川 正男（永山西小）

○塚崎富紀雄（末広北小）

○菅原 敏光（旭川第三小）

○品田 潤（光陽中）

赤島 吉昭（旭川第二小）

四十物明紀（北星中）

村住 久恵（神居東小）

鳥本 淳子（神居中）

小松 吉隆（六合中）

杉本 佳絵（共栄小）

塩崎 隆興（愛宕東小）

北島 裕二（豊里小）

新飯田 登（上雨紛小）

松藤 浄治（末広北小）

吉本 博二（緑が丘中）

土屋 誠（旭川中）

長谷川素子（春光小）

原 完（永山中）

山科 瑞穂（北光小）

若林 弘士（忠和小）

鷲見 京子（永山西小）

根本 正昭（神居小）

入井 峰生（北門中）

吉永 一江（春光台中）

長瀬 優（旭川第三小）

山内 恵子（緑が丘小）

成田 慎司（光陽中）

●編集 部

- ◎新井 絹恵 (啓明小)
○門脇 元 (愛宕小) 木村 悦子 (正和小) 長野 晃児 (東光中)
○菅 導信 (東光中) 本間 篤 (旭川中) 阿部 英子 (永山西小)
○工藤 斉 (神楽小) 猿田ひとみ (広陵中) 伊藤 久栄 (西御料地小)
西村 絹子 (西御料地小) 田中 好恵 (西神楽中)
石黒 昭子 (旭川第三小) 居島アヤ子 (愛宕東小)

●会 場 部

- ◎飛弾野弘尚 (永山南中)
○吉田 顕康 (豊里小) 渋谷 幹子 (正和小) 今 修一 (朝日小)
○大谷 伸也 (東五条小) 長谷 良 (日章小) 永澤 千美 (高台小)
沢口 容子 (愛宕東小) 板橋 正吾 (新町小) 佐藤 之憲 (近文小)
中井 一夫 (東陽中) 牧野 和夫 (明星中) 西岡 裕英 (北門中)
村端 聖子 (北光小) 石川 文江 (東明中) 城戸 崇 (啓北中)
川口 裕平 (聖園中) 宮崎 智 (附属旭川小) 真木 房子 (旭川盲学校)
小川 修二 (永山南小) 川村由美子 (東町小) 玉手 稔唯 (永山小)
宮崎 晃 (永山東小) 石道恵智子 (共栄小)
中井 光夫 (西神楽小) 弘田 洋子 (愛宕小)
本田 幸市 (永山南中) 青木 新治 (緑が丘中)

●会 場 校

- 中辻 透 田畑 守康 飯塚 礼二 大谷 伸也 北川 一之
大森 陸郎 浅田 訓義 合田 璋子 坂本 幸 松倉 紀子
笹木 敏勝 脇坂 松利 野原 克文 水上 育夫 長谷川 充
笠井 敦子 井村佳代子 宮本 佳世 新田 玲子 後藤 和子
阿部 泰子 栗山 直記 塩崎 里美



第43回 全道造形教育研究大会旭川大会

発行者	大会運営委員長 川島 信也
大会事務局	旭川市立東五条小学校
発行年月日	平成 5 年 7 月 28 日
印刷所	岡 本 印 刷 所
	旭川市6条西5丁目 電話(0166)22-0752番

協賛名簿▶

第43回北海道造形教育研究大会旭川大会 協賛名簿

(順不同)

株式会社 サクラクレパス 札幌市中央区南4条西13-1-26	日藤株式会社 旭川市東7条7丁目
ぺんてる株式会社 札幌市白石区流通センター1-4-18	北海道コクヨ 株式会社 札幌市白石区東札幌5条4丁目3番2号
日本文教出版 株式会社 大阪府大阪市住吉区南住吉4-7-5	道北パナOA システム株式会社 旭川市4条通21丁目
株式会社 秀学社 東京都中野区新井1-2-16	株式会社 トンボ鉛筆 札幌市豊平区平岸5条10-20
株式会社 はくぶん 大阪府門真市新橋町23-1	ニチバン株式会社 札幌市中央区北5条西6-2
株式会社 美術出版デザインセンター 東京都新宿区市谷本村町2-19	ダイゴー株式会社 札幌市東区北35条東20丁目1-15
新日本造形 株式会社 東京都中野区新井1-42-8	株式会社 キングジム 札幌市豊平区平岸3条3丁目1番27号
株式会社 学習研究社 東京都太田区仲池上1-17-15	株式会社 テクノセブン 札幌市西区山手3条2丁目1-10
新日本教文 株式会社 東京都中央区日本橋箱崎町35番10号	不易糊工業 株式会社 東京都台東区蔵前2丁目13番9
株式会社 三和製造所 東京都北区赤羽北1丁目17-1	コニシ株式会社 札幌市西区琴似1条5丁目
株式会社 新学社 東京都新宿区市谷山伏町1-19	銀鳥産業株式会社 札幌市豊平区平岸4条10丁目1番4号
株式会社 光文書院 東京都千代田区五番町14	プラス株式会社 札幌市東区北6条東6丁目2番3
株式会社 文溪堂 東京都豊島区高田3-32-1	株式会社 サンワ 秋田県秋田郡田代町
山立株式会社 神奈川県川崎市多摩区登戸309	滝沢ベニヤ 株式会社 上川郡東川町西8号北1
オリエントエコー 株式会社 東京都新宿区下宮比町2-18	東芝E&S 北海道株式会社 旭川市流通団地3条5丁目
プリハード株式会社 東京都杉並区萩窪5丁目	大丸藤井株式会社 旭川市流通団地2条1丁目7番地
株式会社 ターレンスジャパン 東京都台東区蔵前3-20-2	株式会社 旭屋 旭川市宮下通11丁目左5号
日本額縁株式会社 札幌市白石区菊水上町2条3-52	株式会社 山城教材社 旭川市4条通21丁目左6号

第43回北海道造形教育研究大会旭川大会 協賛名簿

(順不同)

旭川藤女子 高等学校	校長 森岡千恵子	有限会社 三景スタジオ	代表取締役社長 大西 康文 旭川市4条通13丁目右10号
旭川竜谷高等学校	校長 五十嵐 弘	シヤチハタ工業 株式会社	札幌市中央区南16条西13-2-24
旭川大学高等学校	校長 山内 清	タケヤ刷毛工業 株式会社	旭川市8条通17丁目右10号
旭川実業高等学校	校長 堀水 旭	花 月 会 館	旭川市3条7丁目左8号
旭川女子 高等商業学校	校長 宝田由和子	パ ル 三 愛	旭川市4条通8丁目
株式会社 アサミツ商販	旭川市春光町3区2条	北海道コカ・コーラ ボトリング株式会社	代表取締役 道北支店長 後藤 輝雄
株式会社 アーテック		男 山 株 式 会 社	旭川市永山2条7丁目1-33
株式会社 美術工芸センター		株式会社 スポーツハウス旭川営業所	旭川市5条8丁目右1号
昭和教材株式会社		スポーツ用品専門店 「ロータリースポーツ」	旭川市9条7丁目右1号
青葉出版株式会社		第一法規出版 株式会社 北海道支社	札幌市中央区北4条西6丁目
株式会社 グリンクロス旭川店	旭川市10条21丁目1-14	株式会社 ぎょうせい旭川駐在所	所 長 玉川 正和
株式会社 パジコ	東京都目黒区中目黒	吉 田 病 院	院 長 吉田 威 旭川市4条西4丁目
教育出版株式会社	札幌市中央区北3条西3-1-44	渋 川 歯 科 医 院	院 長 渋川 義和 旭川市神居3条12丁目
JTB日本交通公社 旭川支店	旭川市宮下通7丁目2399	窪 田 歯 科 医 院	院 長 窪田 晃 旭川市神居2条10丁目
東急観光旭川支店	支店長 後藤建一郎 旭川市2条通8丁目	医療法人社団 板谷整形外科医院	院 長 板谷 純孝 旭川市神楽岡14条3丁目
東武鉄道グループ 東武トラベル	所 長 青木 勉 旭川市1条9丁目 第一生命ビル1F	土屋内科小児科 医院	院 長 土屋 行美 旭川市神居2条12丁目
キングツアー 京王観光	旭川市3条9丁目 日本生命ビル1F	唐 沢 時 子	旭川市3条西3丁目
株式会社 日交観トラベル	支店長 勝海 順一 旭川市宮下通 8 丁目	株式会社 総北海	旭川市神楽岡14条5丁目

第43回北海道造形教育研究大会旭川大会 協賛名簿

(順不同)

郷土誌 『あさひかわ』 代表 渡辺 三子 旭川市宮下7丁目 駅前ビル6F	『ミシュラン』 旭川市4条7丁目 クロスビル3F
中沢写真館 旭川市永山2条20丁目	ナイトイン 『パンドラ』 船木 玲子 旭川市4条6丁目 パールハイフ701
中沢写真館 神楽店 旭川市神楽3条3丁目	板前『国 部』 旭川市4条6丁目 第5ヨシタケビル1F
株式会社 あいわプリント 代表取締役 齊藤 敏 旭川市3条4丁目右1号	常 新 鮪 し 長田 一郎 旭川市3条6丁目
浪 岡 商 事 代 表 浪 岡 正 宏 旭川市錦町15丁目	イ コ フ 旭川市神楽6条14丁目3の9
ホビーライフ 『はせ川手芸店』 旭川市緑が丘3条3丁目 中央ストア2F	『ア ド レ ス』 旭川市3条6丁目 ウイングムビル4F
坂本商店 (紙・文具) 旭川市秋月2条1丁目6の14	天 勇 旭川市5条8丁目
岡 本 印 刷 旭川市6条西5丁目	有限会社 かとう印刷 旭川市神楽2条10丁目
津田石油商事 株式会社 旭川市流通団地1条2丁目	額縁の『ピカソ』 旭川市9条7丁目左2号
『ふくじゅそう』 大島紗智子 旭川市3条6丁目 珍平ビル	株式会社 ノーストラベル 旭川市宮下通8丁目
ファミリーレストラン 『りっか亭』 旭川市6条4丁目 サンアザレアビル1F	穴口ふとん店 穴口 昭三 旭川市1条5丁目左7号

北海道造形連盟協賛会員

会 社 名	所 在 地
KKサクラクレパス札幌出張所	064 札幌市中央区南4条西13丁目
べんてる KK札幌支店	003 札幌市白石区大谷地227-87
開隆堂出版KK北海道支社	060 札幌市中央区南1条西4丁目 日の出ビル内
東京書籍KK北海道支社	064 札幌市中央区南6条西14丁目1-5 東書ビル内
日本文教出版KK札幌出張所	001 札幌市北区新琴似9条12丁目1-1
野幌陶芸社	069 江別市野幌町9-13
文学堂製筆KK札幌店	062 札幌市豊平区平岸5条9丁目
セメダイン通商KK札幌店	060 札幌市中央区北7条西25丁目 協栄生命札幌西ビル内
コニシKK札幌支店	063 札幌市西区琴似1条5丁目 札幌松井ビル内
銀鳥産業KK札幌店	062 札幌市豊平区平岸4条10丁目4
ほくとうKK	065 札幌市東区北16条東7丁目231
寺西化学工業KK (ギダー)	162 東京都新宿区富久町1-11

祝

第43回全道造形教育研究大会

旭川大会

日 文

日本文教出版株式会社北海道出張所

札幌市北区新琴似9条12丁目1番1号 (電話) 011-764-1201 ☎001



本 社 大阪市住吉区南住吉4-7-5 (電話) 692-1265 ☎558

東京支社 東京都中野区新井1丁目2番16号 (電話) 3389-4611 ☎165

祝 第43回 全道造形教育研究大会旭川大会



黒い面にも色あざやか。しかも振らずに書ける。


水性 + 顔料 + 不透明インキ

- 黒い面にもあざやかに発色、しかも振らずにすぐ書けます。 ●イヤなニオイがしません。
 - 先端ブッシュ式のようなポタ落ちがありません。 ●金属・ガラスにも筆記できます。
 - 裏うつり・ニジミがありません。 ●耐水性・耐光性にすぐれています。 中字 ¥150
- カラーバリエーション ツインタイプ ¥200

くろ あかしろ あお みどり きいろ だいだい ちやいろ むらさき

SAKURA **PIGMAX**

ピグマックス ペイント マーカー

 株式会社 サクラクレパス

祝 第43回 全道造形教育研究大会旭川大会

芯だけでできたソフトな色鉛筆、パスティック

PASTICK 12+1 colors

名前シール、消しゴム、削り器付き

描画に

白地図に

植物観察に



パスティック12+1は
従来の12色に「むらさき」が加わり
植物観察に最適です。

- ▲のびが良く透明感がある仕上がり
なので白地図に最適です。
(下図をつぶしてしまうことはありません。)
- ▲スタンド式パッケージなので
取り出し易く狭い机の上でも
場所をとりません。

バラケ防止用
ゴムかけ式ケース



Pentel

パスティック

製品符合	小売価格
GCP-13	¥950(税別)

祝

第43回全道造形教育研究大会

旭川大会

あすの教育を大きくひらく

秀学社

新版 美術の表現と鑑賞 北海道版
レタリング&ポスター
レタリング辞典
混色事典

校章・校名入り好評
各種スケッチブック
各種クロッキー

＝ 道北地区代理店 ＝

いつでも皆様の
お役に

■取扱品目■

- 学校教材
- 文具・紙製品・一般事務器・スチール製品
- 画材・額縁・デザイン用品・書道用品●電卓・レジスター
- 複写機・ファクシミリ●オフィスコンピューター●ワードプロセッサ
- 病院用家具●間仕切り・トイレブース設計施工
- 学校黒板設計施工



株式会社 山城教材社

旭川市4条通21丁目 ☎代31-1932

小売部

セピア山城

旭川市4条通21丁目 ☎32-7550

祝 第43回 全道造形教育研究大会旭川大会ご盛会

美術教材

版画プレス機
各種版画材料
陶芸材料
彫塑・彫刻
陶芸窯
七宝
染色
工作
木彫
彫金・金工
製図・デザイン
絵画

新日本造形株式会社

東京本社 〒165 東京都中野区新井1-42-8 ☎03-3389-1221代

美術教育、造形活動のための教材

●各分野の商品を10,000点取揃えて販売いたしております。



●取扱品—— 絵画・版画・デザイン・製図・色彩・紙工・彫刻・陶芸・木工・木彫・着色塗料・接着剤・金工・電動工具・七宝・合成樹脂・モザイク・ステンドグラス・竹工・籐・織り物・染色・手芸・鑑賞資料(名画・彫刻レプリカ)・美術出版カラーズライド・ビデオテープ・レーザーディスク・CGソフト・美術出版社発行図書・学校設備品



bijutsu shuppansha service center

美術出版社サービスセンター

〒162 東京都新宿区市谷本村町2-19 電話03-3260-2388代表(ご注文電話)

1993年度版の新しい総合カタログ(総648ページ・カラー版)ができました。

—— 道北地区代理店 ——



株式会社 山城教材社

旭川市4条通21丁目 ☎代31-1932

小売部

セピア山城

旭川市4条通21丁目 ☎32-7550

祝 第43回 全道造形教育研究大会旭川大会

心から、体から。思う存分リフレッシュ。



ALPA
HOTEL

男女総合サウナ
「アルパ」B1F
ゆったりにくつろげる広いラウンジと、最新のメカを駆使した設備で心地よい汗を流して、疲れた体をいやしてください。

出逢い、集い、くつろぎ、味わい、
豊かなひとときをつくるプレステージホテル。

- 客室数265室 ●大ホール(1700名収容可能)他、
中・小宴会場21 ●和・洋・中レストラン ●男女
総合サウナ ●プール ●ブライダルサロン

しあわせアベニュー公園通り

旭川パレスホテル

〒070 北海道旭川市7条通6丁目 TEL(0166)25-8811

FAX(0166)25-8200・TELEX9224-24

札幌営業所/TEL(011)261-3001

●ご婚礼、ご宴会予約承ります。 宴会予約/TEL(0166)25-8844

Oh! Beer!



楽しさひろがる味の世界

ニュー北海道ホテル

4F 屋上ビアガーデン

旭川市5条通り6丁目 ☎(0166)24-3111

ビアガーデン
Beer Garden
New Hokkaido Hotel 4F

開催期間

5月/29日～8月/31日

営業時間

平日▶PM5:00よりPM9:00まで

土・日▶PM4:00よりPM9:00まで

7月のみ1時間延長営業致します。

無害安全な 和信の 学校教材用塗料

学校教材用のカタログを用意しております。
右記へご請求ください。

水溶性つやだしニス
水溶性つや消しニス

万能工作カラー
水性エナメルZ(特許品)

ワシンステンド

特性ラックハケ

和信ペイント(株) 東京サービスセンター
〒170 東京都豊島区駒込1-11-4 ☎03(3942)9111



43
ASAHIKAWA

